

製造部

鯉節製造傳習

同	同	同	同	同
七日	六日	五日	四日	三日
	晴南々西	晴西南西	晴北一	雨南二
	へ	へ	ト	ト
	至自 后前 六、三 六、三	至自 后前 七、五 七、三	至自 后前 七、三 六、三	至自 后前 七、四 六、四
	八	七	六	二
	二五、三北東 緩	二五、〇東北東 急	二〇、六東北東 緩	二四、七北東 急
	赤落木	白生木		
	元久	元久		
<p>前七時三十分發黑島ニ向フ居三時四十分ヨリ居六時〇四分マデ松ケ崎漁場ニ操業潮流急ニテ曳網ニ適セマ居六時五十分松ケ崎島ニ錨泊</p> <p>前六時十分發全七時二十分ヨリ居六時二十分マデ松ケ崎漁場ニ操業シ居七時片浦錨泊</p> <p>前六時二十分發全六時五十分ヨリ居七時三十分マデ開出シ曾根ニ操業シ白生木一ツ得居八時五分大里ニ錨泊</p> <p>前六時四十五分發全七時三十二分ヨリ居六時三分マデ開出シ曾根ニ操業シ赤落木三十八分マデ得鹿兒島ニ向フ</p> <p>前五時五分鹿兒島港歸着</p>				

本縣産鯉ハ肉質優良ニシテ多脂ニ失セズ寡脂ニ陥ラズ節トシテ好適ノモノ多ク漁獲セラレ生産年額五百五十万圓ヲ越エ全國ノ王坐ヲ占ムルモ在來産スル薩摩節ハ多クハ一番徹着生ヲ限度トシ出荷セラレタル慣習上加工精致ヲ欠ケル以テ本場ハ夙ニ此レガ改善ノ急務ヲ認メ優良ナル駿遠節ノ長所ヲ採入レ年々靜岡縣ヨリ多數ノ製造職工ヲ採用シ製造ノ改善ニ努メタル結果其盛期ニハ枕崎山川等ニ雇用セラル、職工百名ヲ越ユルニ到リ製品モ著シク改善セラレ東京市場ニテモ改良薩摩節ノ聲頓ニ向上シ駿遠節ニ拮抗シ遜色ナキニ到レリ仍テ本場ハ地方ノ子弟ヲシテ製造技術ヲ習得セシメ益薩摩節ノ改善ヲ促サントシ前年來技術者ノ養成ニ努メ本年モ四月十五日ヨリ八月十五日迄滿四ヶ月ニ亘リ講習生ヲ募リ民間工場四ヶ所ヲ選ビ各九名ツ、ヲ配置シ靜岡

縣燒津町ヨリ聘シタル職工ヲ實技指導者トシ生切り、養熟、焙乾ノ製造諸工程ニ就キ修練セシメ最後ノ一ヶ月間ハ本場附屬枕崎鯉節傳習所ニ收容シ削作業ノ熟達修練ニ努メタリ本年度委託配屬セシメタル工場及講習生左ノ如シ

川邊郡枕崎町國見龜吉製造工場

山神政也 牛山末吉 立石龍市 上釜瀧内 榮村ユミ 山之内ユキ 茶屋道ヤエ 立石サチ 山内スミ

同郡同町中村末吉製造工場

茶園末彦 川野吉藏 松之下盛之助 揚野常盛 松之下サキ 神園ヤエ 上釜ユミ 田之尻トキ 加治ミエ

同郡同町今井嘉市製造工場

町頭榮次 立石俊盛 山之内鉄也 新屋敷龍之助 新屋敷ユミ 台場アサエ 新屋敷トシ 加治トキ 牧之ハルエ

同郡同町立石常次郎製造工場

立石淺芳 松元國義 久保若盛 浜村初雄 城戸ミエ 山神スミ 揚野カヅ 松下スミ 榮村サヨ

講習修了生ハ左ノ八製造工場ニ引續キ採用セラレタリ

國見龜吉工場男三名

浜崎十五郎工場女六名

中村末吉工場男三名女一名

橋口加藤次工場女三名

今井嘉市工場男四名

立石常次郎工場男四名女一名

中村常光工場男一名女三名

中釜精一郎工場女二名

鹿兒島實驗所製造試驗

本年度ニ行ヒタルハ鯉養汁利用試驗ト前年試製セル鯉鹽辛ノ試賣ヲ爲セリ

鯉養汁利用試驗

趣旨 鯉生食ノ慣習ナキ本縣ニ於テハ漁獲セラル、所ハ殆ンド鯉節ニ製造處理セラル、ト見ルモ大過ナク其額約二百五十萬貫ニ近ク製造ノ旺盛ナル丈ケ鯉養汁ノ生産モ多量ニ上レリ

鯉節製造工程ニ於テ生鯉ガ養熟セラル、ヤ其内ニ含まレタルエキス分ノ一部ハ養汁中ニ逃出スルガ故同一煮水ヲ用ヒ數回煮熟

ノ繰返サル、トキハ養水ハ有用成分ヲ含ム相當濃度ノ溶液トナル從來本縣ニハ之レヲ利用シタルせんじアレドモ特殊ノ嗜好品タルニ止マリ一般ニ販路ヲ有セズ近來燃料ノ騰貴ト共ニ其製造益々不振トナリ販路ノ狭少ト共ニ産額多カラズ本場ノ試験セントスルモノハ一般の嗜好ニ適スル調味料ノ製出ニアリテ從來ノ製造ニ準ズ可能的ニ挾雜物ヲ除去スル製法ニヨリタリ從テ水分驅逐ヲ始メトシ脂油排除ト臭氣及ビ膠分除去等ハ主要作業ニシテ就中水分ハ其多量ナル丈ケ之レガ排除ニハせんじノ場合ト同様多クノ費用ト時間ヲ要スルモノアリ殊ニ近時行ハル、鯉煮熟操作ノ如ク煮熟作業ヲ中斷スル事ナク釜水ノ幾分ヲ交換ヲナス方法ニアリテハ仮令原料煮熟量多キニ上ルモ養汁ノ濃度ハ増加スル事ナキヲ以テ將來適當ナル方法ノ講セラレザル限リハ養汁利用ノ前途ニハ多少ノ危懼ナキニアラザルナリ加フルニ加工技術上ヨリ見レバ脫臭脫脂並ニ膠分除去ヲ完成スルニハ相當困難モ伴ヒ來ルヲ以テ本試験ノ成績ハ豫斷シ難キモ序ヲ追フテ研究ノ歩ヲ進メントシ前年度ニ引續キ本年之レヲ繼續試験セリ

試験用資料

前年六月中縣下枕崎町ニテ前年ト同一方法ニテ操製シ爾來靜置シタルモノハ斗七舛ト之レニ前々年度使ヒ殘シタルモノ三斗ヲ加ヘ合計一石一斗七舛ヲ資料トシタリ、後者ハ樽底ニ多量ノ黑褐色泥狀物質滯積シアリタルヲ以テ布ニテ濾除シ用ヒタリ、此資料一斗ニ對スル生産費ヲ前年度行ヒタル處ニヨリ記セバ

種目	第一回		第二回		計	單價	金額
	消費	計	消費	計			
燃料(松薪)	二七把	二五、五把	二五、五把	一〇、一三〇	一〇、一三〇	一、〇八一三〇	
鹽	七升	七升二合	一斗四升二合	一升九錢六厘	一、三六三	一、三六三	
人	男一人	一人	二人	一人一圓	二、〇〇〇	二、〇〇〇	
	女二人	二人	四人	一人八十錢	三、〇〇〇	三、〇〇〇	
合計						一七、六九三	

本表ニヨリ採製品一斗ニ對スル生産費ヲ示セバ次ノ如クナル
資料一斗ノ生産費

採製量	第一回	第二回	計	生産費總額	資料	一斗生産費
第一回	三斗五升	三斗六升	七斗一升			
第二回						
計						
生産費總額				二圓四九二		

鹿兒島實驗所ノ試驗

製造方法 製造ハ大体前年度ニ準ジ中層液採收ト蒸發脱臭トヲ主要作業トセリ中層液抽出ヲ行フ裝置ハ四個ノ原料樽ヲ地上

四尺以上ノ高キ臺上ニ並置シ硝子管トゴム管トヨリ成ルサイフロン二個宛ヲ各樽ヨリ派出シ各サイフロンノ端ハ表面ヲ布ニテ蔽ヒ濾過裝置ヲナス一個ノ空樽中ニ集注セシメ其下底ヨリ別器ニ流入採收スルモノトス六月二十五日此準備ヲ了ヘ翌日抽出ヲ行ヒ其後二日間靜置シ脱臭作業ニカ、レリ蒸發ノタメ液ノ濃度進メバ焦着ノ患アルヲ以テ原液ヲ豫メ稀釋シ其五舛ニ清水一斗ヲ配シ經二尺二寸ノ平釜三個ヲ用ヒ各釜一回量一斗五舛宛トシ直火ニテ加熱シ時々泡沫ヲ除キツ、作業ス尙ホ釜底ノ直熱ヲ避クルタメ各釜底ニハ月日貝殼十五六枚宛入レ置キタリ

試驗ノ結果 原料トシテ原液一石一斗七舛ヲ用ヒ之レヨリ採取シタル中層液ハ母氏比重二十七度ノモノ八斗ナリ（此作業

中從業員申談テ容器ヲ傾覆シ原料ノ喪失ヲ來シタルタメ抽出量頗ル減少シタリ）而シテ原料容器ノ各樽肌ニハ米粒大ヨ砂大ノ不溶性結晶夥シク着生シテ樽ノ内側底部ヲ埋メタリ採取シタル中層液ニ脱臭蒸發ノ作業ヲ與ヘ製品六斗二舛五合ヲ得タリ製品ハ醬油狀褐色ニシテ稍粘稠性アリ臭氣全ク無ク強酸性ニシテ味ハ前年度ノ調製品ニ比シ美味ノ感劣ル所アリ（蒸發脱臭後三十度ノ比重ヲ示シ製品ヲ水ヲ用ヒ前年度製品ト同様母氏二十度ニ稀釋シ比較シタリ）其貯藏性モ前年度品ニ及バザル如ク期間長キニ亘レバ多少發黴ノ氣味アリ前年度製品ノ如ク安定性ナキ如シ原因ハ原料液ノ不良ニ基クカ又ハ混和シタル前々年度製液ニ黑變アリタルモノカ暫ク記シテ今後ノ結果ヲ待ツ事トスベシ

一、原料煮汁ハ良質ノ物ノミ撰用スベシ然カラザレバ爾后ノ努力モ効少ナシ不鮮魚ヲ扱ヒタルモノハ用キザルヲ可トス
二、鯉煮汁ノ產出サレタルトキハ時ヲ移サズ製造作業ニ着手シ且ツ成ルベク汲ミ換エ移動等ヲ避クル方可ナリ鯉煮熱ヨリ出デタル煮汁ハ稀薄ニシテ變質性ナルヲ以テナリ

三、鱒節製造ヨリ考フレバ現行ノ如ク特ニ沸騰ヲ利用シテ新水ヲ補給シ煮熟作業ノ中止ヲナス事ナク釜水ヲ清潔ナラシムルハ合理的ナルモ斯クシテ煮熟量ヲ多クスルモ煮汁ノ濃度ハ高マラザル故煮汁利用上ヨリハ更ニ工夫ヲ行フ事必要ニシテ煮汁ノ

販賣又ハ利用モ鯉節製造經濟ニ關スル以上適當ノ方法ヲ案出スルコトヲ要スベシ

四、將來ハ現行ノ如ク多量ノ水分ヲ蒸發排除スル方法ニヨラザル採製法ヲ案出スルヲ要ス水分排除ニヨル經費勞力ハ頗ル大ニシテ本製造經濟ノ基礎ヲ不安ナラシム

五、製品調味料ハ三年以上ノ經過行程ニアルモ未ダ發微セズ微ニハ頗ル安定ナル如キモ美味ハ三年經過ノモノニ於テ稍亡失減少アルヲ感ゼリ

六、本製品ニヨル調味料ハ之レヲ試味ノ場合ニハ美味ノ感頗ル強キモ料理（すまし汁味噌汁等）ニ試用シテ利キ良カラザル感アリ之レヲ利カシムル迄使用スレバすまし汁等ノ濃度ヲ過度ナラシムル如シ

本年度ノ製品ハ例年ノ如ク良好ナラザリシモ主要成分ト用途販路ノ狀況ヲ知ラントメ一部ヲ小樽詰トシ昭和四年九月東京國立水産試験場ニ送附シ調査ヲ依頼シタリ未ガ回答ニ接セズ

昭和三年度鹽辛製造試驗成績補記

本年度ノ鯉鹽辛試驗ハ昭和三年十月半ニ於テ行ヒタルコト同年度本場報告ニ記シタル如ク製造期遅レタルタメ其製品ハ漸次寒冷ニ襲ハレ醸熟ヲ得ズ越エテ昭和四年三月末食味ノ比較ヲ行ヒタル儘トナリタルヲ以テ其後ニ行ヒタル試賣經過ニツキ左掲ス製品ハ昭和四年八月中之レヲ器械ニカケテ切刻シ肝臟入ノモノヲ一號グルタミン酸鹽生成ノモノヲ二號トシ別々ニ新樽詰トシ全年九月二十六日鹿兒島發ニテ東京市内鹽辛食料品店トシテ出シ品評ヲ徵シ試賣ニ附シタリ同店ヨリノ報告頗ル遅レ越エテ昭和五年二月六日落手シタルガ本記載ハ本試驗ニ必要ナル事項ヲ欠ク憾ミアルモ其意ノアル所ヲ摘記スレバ

第一號（肝臟入ノモノ）

一、鹽味 アマシ鹽量ハ四舛五合乃至五舛（仕方わた一斗ニ對シ）迄使用スル方適當ト思ハル

昨年モ鹿兒島ヨリ入荷ノモノニシテ着後不良化シタル事例アル等出荷ヲ急ギ又ハ鹽あまきタメナラント考ヘラル

二、滋味アルハ不可ナリ

三、さらしモ充分ニテ相當良好ノ出來ナリ但シさらし方ハ斯ク迄精良ナラズトモ可ナラント思ハル

第二號(グルタミン酸鹽生成ノモノ)

一、鹽味適當ニシテ良好ナリ

二、さらしハ充分ニ行ハレタリ但シ販賣者ノ意見トシテハ斯ク迄精良ニセズトモ可ナラント思ハル

三、品質優秀ナリ若シ小ばん鯉ノわたヲ原料トシタランニハ以上ナキ良品ト思ハル

第一號試験品ハ肝臟ヲ原料トスルノ可否ニツキ行ヒタルモノニシテ評言中ニハ何等表ハサレタル所ナキモ反テ其加用ガ必ズシモ不良ニアラザル事ヲ逆睹シ得次ニ之レヲ加用シテ鹽辛ノ食味ヲ増進スベキヤ否ヤニ就キテハ比較スベキ普通製品ナキタメ今ハ判断シ難キモ諸動物ノ肝臟ヲ用ヒタル諸種ノ食品ニ於テ特ニ旨味ノ増進アルハ事實ナルヲ以テ後日新鮮肝臟ヲ用ヒ其含有可溶物質ヲ保存スル方法ヲ取り製造シタル機會ニ研究スル所アルベシ用鹽量ハ第二號品ノ場合ト同一割合ナルニ不足ノ評アルハ蓋シ肝臟ニ因スル呈味物質ニ緩和セラレタルモノニアラザルカ滋味ノ存在ハ晚秋ニ攝リタル原料ノ多脂質ニ因スベキ事已ニ説キタル所ナリ品評中ニ見ユルさらしナル詞ハ普通當業者ノ使用スル所ニシテ挾雜物ノ除去水洗作業ヨリ其他鹽漬前ニ渉ル操作ノ總稱ノ如ク要ハ普通ノ商品トシテ試験品ノ如ク優良ナラシムル必要ナシトノ意見ニシテ亦一種ノ見解ナリト思惟ス

今此品評ヲ參考シ試験ノ事實ニ基キ肝臟ヲ混用スル鹽辛ノ製法ヲ考フレバ左ノ數項ハ之レヲ味フノ要アルベシ

一、原料ノ新鮮ナルヲ採用スベシ

一、肝臟ヲ仮漬シタル鹽汁ハ漬込ミノ際わたニ加用スベシ

一、鹽量ハ仕上わたニ對シ二割(容量)ヲ用ヒタルモ尙ホ増加スベシ

一、晚秋漁ノモノハ滋味ヲ發シ易ケレバ考フベシ

一、營利品トシテハさらしノ程度ヲ今少シク粗トスルモ差支ナシ

第二號試驗品ハわたノ（主トシテ幽門垂ノ）有スル Trypsin 様酵素ヲ小麥ノ蛋白質Glutamin 及Glyadin ニ作用セシメ分解ニヨリ GlutaminAcid ヲ生ゼシメ得ベキヤ否ヤ及經わたノ分解ニヨル動物性旨味ニ此グルタミン酸鹽ニヨル植物性旨味ヲ交ヘテ其總味ヲ在來ノ鹽辛ヨリ秀デテ美味ナラシメ得ベキヤ否ヤニ就キ行ヒタルモノニシテ品評スル所モ品質優秀ニシテ鹽味適良ナリトサレ其美味ナリシハ想像シ得ラレ曩ニ嗜好者數人立チ合ヒ試食シタル結果ト一致セリ學術的ニグルタミン酸鹽ノ存在ヲ證セザルヲ以テ具體的ニ強調シ得ザルモ曩ニ報告シタル方法ニヨリ一層美味ナル鹽辛ヲ製造シ得ベキハ之レヲ云ヒ得ベキナリ

試賣ノ結果 第一號ハ七貫匁第二號品ハ七貫九匁ヲ各別ニ樽詰トシテ發送シ試賣ニ付シタル處仕切ハ兩者ヲ一括シテ十二圓ヲ拂ヒ來リ一貫匁當平均八十錢五五ヲ示セリ送荷量少ナキタメ煩雜ヲ避ケタル結果ナルベキモ試驗品個々ニ關スル相場ヲ知ル材料ナク成績研究上遺憾アルモ己ムヲ得ス

運賃ハ別ニ一樽ヲ併セテ大小三樽分東京着五圓七十三錢ヲ要セリ平均一樽ニ付金一圓九十一錢ニシテ差引一樽ノ手取值概畧四圓〇九錢トナル

阿久根製造場製造試驗

本年施行セルハ鱈丸乾鱈末廣乾製造試驗ノ二種ナリ

趣 旨 本縣ニ多産スル鱈ハ鱈節ニ製造セラル、モ其豊凶區々ニテ變動甚シキニ當リ製造者ハ原料ノ購入ニ苦ミ且魚質ノ鮮

否魚形ノ大小脂質ノ有無等各種ノ原料ニ遭遇シ必ズシモ鱈節ニ供シ得ザルヲ思慮セバ機ニ臨ミ魚價ノ高低ヲ考慮シ種々ノ製品ニ利用加工シ一般ノ需要ニ應ズルハ極メテ必要ナルヲ以テ鱈製造改善上益々各種加工ヲ孝案ノ必要ヲ思ヒ本試驗ヲ續行シ生産物ハ各地食料問屋ニ委託販賣シ販路ノ開拓ニ資シタリ

(一) 鱈丸乾製造試驗

經 過 在來産鹽干鱈ハ嗜好ノ慣習且變質ニ備フル爲用鹽過量ニ失シタルガ長崎縣熊本縣等ニ見ラル、鹽味ヲ適度ニ浸透セ

シメタル鱈丸乾ハ京都東京方面ニ需要多キヲ以テ此ノ製造方法ヲ採用シ本縣ニモ生産ヲ旺ンナラシメ普及ヲ計ラントシ九月十四日ヨリ十一月六日ニ到ル十日間中羽鱈十一石五斗ヲ供試原料トシ製造ヲ行ヘリ

月 日	原 料	數 量	生 産 高	月 日	原 料	數 量	生 産 高
九月十四日	中羽鱈	一〇	一貫五〇〇匁	十月二十八日	中羽鱈	六斗	六貫四〇〇匁
十五日	同	一〇	一一、四八〇	二十九日	同	二〇	二〇、〇〇〇
十月一日	同	一〇	一一、二〇〇	三十日	同	一五	一五、三〇〇
五日	同	一〇	一一、二〇〇	十一月六日	同	一〇	一一、〇〇〇
七日	同	一一	一三、四〇〇	計		一一五斗	一一五、八八〇
十日	同	一一					

製造方法 原料ヲ水洗ヒシ立鹽漬トシ一定時間ヲ終テ漬樽ヨリ直チニ串刺トシ掛梓ニ懸クレ別ニ配セル人夫ハ此レヲ洗桶

内ノ清水中ニテ串ヲ握リ前後左右ニ移動シテ洗滌シ適宜水切りヲ行ヒ乾棚ニ懸垂シテ日乾風乾五六日乃至十日間ニシテ乾固シ終了ス乾了スレバ棚ヨリ取卸シテ串ヲ去リ蕈ニ並ベテ日乾シ荷造ヲ行ヒ輸送ス

試 賣 生産總量中委託試賣セルハ一一三貫八五〇匁ニシテ東京、京都、大阪、神戸、名古屋、大津、奈良、長野ノ各都市

ニ賣却セルニ京都ニ試賣セルモノ最モ高値ヲ示シ潤目丸乾十貫二十三圓五十錢眞鱈丸乾十貫十圓ニ仕切ラレ手數料一割運賃其

他ヲ差引キ十七圓四十六錢ノ手取高トナリ大阪榭重商店之ニ次キ仕切値潤目丸乾二十圓眞鱈十二圓五十錢ニシテ五分ノ入目運賃諸經費ヲ差引キ十五圓五十六錢ノ手取ト成レリ東京方面ハ千葉縣ヨリ入荷多ク仕切値潤目十八圓錫八圓五十錢ナリ其他ハ大阪谷輪商店熊本金井商店等ナリキ表記スレバ左ノ如シ

試賣表

月日	種類	試賣商店名	數量	單價	金額	記事
十月六日	丸乾鰻	京都市中央市場鱈魚株式會社	一〇貫二〇〇匁	一七錢一〇	一七圓四六〇	代表者島津恒三郎手数料一割
同	同	大阪市 辨 重 助	九、七五〇	一五、一〇	一五、五六〇	入目五分
十月八日	ウルメ丸乾	京都市中央市場鱈干魚株式會社	八、五〇〇	一三、四〇	一一、三九〇	手数料一割
同	ウルメ丸乾	熊本市朝市場 金井善七	二、九〇〇	五、六八	二、七四〇	入目三分
同	イワシ丸乾	同	一、八〇〇			
同 十一日	ウルメ丸乾	東京市 安藤俊吉	七、三〇〇	一七、一〇	一三、一四〇	
同	イワシ丸乾	同	六、二〇〇	八、五〇	五、二七〇	
同 十二日	ウルメ	大阪市靱 谷輪清	六、六〇〇	五、一八	三、四二〇	入目五分
同	イワシ	同 人	二、四〇〇	九、八八	二、三七〇	入目五分
同 二十一日	イワシ	長野市 魚市場	三、七〇〇	一、六三	一、七一〇	代表者袖山小太郎
同	イワシ	東京市築地市場 丸重商店	四、五〇〇	一七、八〇	八、〇三〇	店主倉方重輔手数料七分入目二分
十一月七日	イワシ	阿久根町御手洗辰次郎商店	一三、〇〇〇	一四、六一	一九、〇〇〇	代表者堀田與八
同 十六日	ウルメ	名古屋水産市場會社	四、〇〇〇	一、五五	六、二〇〇	代表者舟橋長次郎
同	イワシ	名古屋中央水産市場	四、五〇〇	一、二四	五六〇	
同 十七日	ウルメ	岐阜市水産市場	三、〇〇〇	二、五七	二、三九〇	
同	イワシ	同 店	一、〇〇〇			
同	イワシ	阿久根町川端福次郎	二四、五〇〇	六、一一	二三、四〇〇	
計			一一三、八五〇		一二七、〇六〇	

鰻末廣乾製造試驗

經 過 未廣鰻ハ一般ノ嗜好ニ投テ鰻ノ利用方法トシテ特ニ漁獲少ナク原料高價ナルニ遭遇スルトキ各産地ノ出廻リヲ考慮

シ製造ヲ行ヘバ相當利潤ヲ生ジ得ルニ依リ鰻加工ノ一利用方法トシ普及スルハ必要ナルヲ以テ此レガ指導ノ傍製造ヲ行ヒ昭和

四年九月三十日ヨリ十月十六日ノ間前後八回ニ亘リ鰻五石二斗ヲ原料トシ製造ヲ行ヒ製品三十七貫八百匁ヲ生産セリ

製造方法 調理ハ頭内臟脊骨ヲ除去シ水洗シ準備セル調味液中ニ浸漬シ後取出シテ箆ニ並べ肉膚ニ胡麻ヲ撒布シ日乾風乾ヲ行ヒ終了ス調味液ノ配合ハ普醬油一舛ニ對シ更目二百匁ヲ溶解シ置キ調理原料浸漬時間ハ魚形ノ大小含脂ノ多寡ヲ考慮シ一定シ難ケレドモ一時間半乃至二時間ヲ限度トセリ

製造施行日及生産額ヲ表記スレバ次ノ如シ

月 日	原 料	製 品	月 日	原 料	製 品
九月三十日	五斗	四貫〇〇〇匁	十月一日	五斗	四貫一〇〇匁
十月二日	一一	八、一〇〇	十月五日	三	二、一〇〇
同 六日	五	四、一〇〇	同 七日	四	三、二〇〇
同 十日	三	二、四〇〇	同十五日	六	四、七〇〇
同 十六日	一〇	八、一〇〇			
計	五二	四〇、八〇〇			

試 賣 試賣セル製品ハ四十貫八百匁ニシテ製品ハ各地ニ試賣シ販路ノ開拓ニ資シ東京ハ丸幸及丸重商店京都ハ中央市場大阪ハ榊重田中徳谷輪喜多與北國天満市場大徳各商店名古屋ハ中央水産市場神戸ハ三木商店大津ハ藤井商店ニ委託販賣セルニ仕切値ハ名古屋中央水産市場最高ニテ十貫四十圓ノ相場ニシテ京都運賃諸經費ヲ差引キ三十圓ニ相當シ之ニ次ギ二十五圓東京大阪ハ二十圓代ニシテ神戸大津ハ十七八圓ニ仕切賣却セラレタリ表記スレバ左ノ如シ

試 賣 表

月 日	種 類	試 賣 商 店 名	數 量	單 價	金 額	記 事
十月 七日	ウルメ	東京市築地市場小松原一階商店	四、五〇〇	一八、〇七	八、一三〇	口錢七分八目二分
同 八日	イワシ	京都市中央市場榊干魚株式會社	六、〇〇〇	一〇、六五	六、三九〇	口錢一割
同 日	同	大阪市靱中通田中徳商店	五、三〇〇	一六、四四	八、七一〇	手數料五分
同 日	ウルメ	大阪市榊重助商店	四、五〇〇	一四、〇〇	六、三〇〇	
同 日	同	東京市中央市場榊干魚株式會社	一、五〇〇	一九、八〇	二、七九〇	口錢一割
同 日	同	大津市藤井彌七商店	一、五〇〇	一六、八〇	二、五二〇	

同	十九日	同	名古屋市水産市場株式会社	一、五〇〇	二五、〇〇	三、七五〇	代表者堀口與八
同	日	同	同	一、五〇〇	三〇、〇〇	四、五〇〇	代表者舟橋長次郎手数料一割
同	日	同	神戸三木秀二商店	一、五〇〇	一五、〇〇	二、二五〇	
同	日	同	大阪市親喜多興商店	一、五〇〇	一五、二七	二、二九〇	店主喜多興七
同	日	同	大阪市大徳商店	一、五〇〇	一四、三四	二、一五〇	店主尺長徳兵衛
同	日	同	大阪市北房商店	一、五〇〇	一八、六七	二、八〇〇	店主北園辰之助
同	二十二日	同	奈良市奈良市場株式会社	三、五〇〇	二五、〇九	一一、二九〇	代表者西本常吉手数料一割
同	日	同	同	一、〇〇〇			
同	日	同	阿久根町御手洗辰次郎商店	四、〇〇〇	三二、五〇	一三、〇〇〇	
同	二十三日	同	同	四、八〇〇		七六、八七〇	
計							

養殖部

海蘿着生面増加試験

趣旨 海蘿着生岩盤ヲ人工的ニ築造スル場合ニ於テ該岩盤ノ粗度ノ如何ハ海蘿ノ着生ヲ著シク支配スルヲ以テ本年度ニ於テハ專テ築造岩盤ノ粗度ヲ可及的ニ大ナラシメ着生ノ狀況ヲ試験セントシ昭和四年八月四五日上甌島大字平良ニテ試験ニ着手シタリ

方法及経過

一辨慶 海蘿着生帯ニ連接スレ共凹所ノタメ海蘿ノ着生ヲ見ザル場所ニコンクリート(セメント四分砂三分礫(直徑三分)ノ海蘿着生岩盤ヲ施工シ越ヘテ昭和五年三月十八日海蘿着生狀況ヲ檢シタルニ表面ニ露出シタル礫ノ周圍ニノミ一尺方内ニ三十六個ノ海蘿ノ座ヲ認メタリ

又海蘿着生帯ニ連接スレ共凸凹甚シキ爲海蘿ノ着生ヲ見ザル部分ニコンクリート(セメント四分砂一分水成岩ヲ破碎シタル礫

海蘿着生面増加試験

五分)ヲ填充シ昭和五年三月十八日調査シタルニ表面ニ露出シタル礫ノ周圍ニ多數海蘿ノ着生シタルヲ認メタリ

二、黒瀬西部 海蘿着生區域ニ連接スレ共凸凹甚シキ爲海蘿ノ着生ナキ場所ニコンクリート(セメント四分砂六分)ト山ヨリ搬出シタル縦一尺二寸横五寸ノ岩盤トヲ一帯トナシ兩者凡ソ三十度ノ傾斜ニ施工シ兩者ノ海蘿着生狀況ヲ昭和五年三月十八日調査シタルニ岩盤上及岩盤トコンクリート面ノ境界ヲナス割目ニ無數ノ海蘿附着スルヲ見タリ

成績 築造岩盤上ノ海蘿着生ノ狀況ヲ見ルニ平滑ナルコンクリート(セメント四分砂六分)面ニハ着生極メテ少ナク多少

共割目ノ存在スル處ニ着生多キヲ見又自然石ニモ多數着生スルヲ認メタリ要約スルニ岩盤築造ニアタリ其表面ヲ粗雜ナラシムル様大型ノ破礫等ヲ可成多ク混合スルカ又ハ自然石ヲコンクリートニテ施工スル事最モ良好ナルヲ認ム

海蘿施肥試驗

趣旨 從來海蘿増收方法トシテ實行シ來タリシ着生岩盤築造ノ外ニ着生セル海蘿ニ適當ナル肥料ヲ施シ其成長ヲ圖ルハ最モ適當ナル方法ト思考シ薩摩郡上飯村平良川邊郡西南方村坊ニ於テ前者ハ平良漁業組合ニ後者ハ坊津松下安太郎ニ委託シ試驗ニ着手セリ

方法經過

一、平良字金瀬 連接セル岩盤ノ一方ハ波浪衝突ノ關係ニヨリ他方ヨリ海蘿ノ成長良好ナル場所ナリコレヲ撰ビテ無施肥區(十坪)トシ昭和五年三月廿五日ヨリ全五月廿日迄ノ間ニ合計一五回ノ施肥ヲ行ヒタリ

施肥方法ハ海水二坪ニ智利硝石(Na_2HPO_4)十匁ヲ溶解シ置キ晴天ノ干潮時ヲ撰ビ如露ニテ施肥區ニ撒布シタリ

二、坊字黒子島 フクロ海蘿ノ着生セル岩盤ヲ二區分シ一方十五坪ノ區分ニハ智利硝石十八匁ヲ海水五坪ニ溶解シ置キ晴天ノ干潮時ニ如露ニテ二月二十八日ヨリ五月三十日迄ノ間ニ合計七回施肥シ他方ノ五坪ヲ無施肥區トシ兩者ヲ比較セントシタリ

三、坊字唐船浦 眞海蘿フクロ海蘿着生シ凡ソ四五度ノ傾斜ヲナス岩盤ヲ二區分シ一方十五坪ノ區分ニハ硫酸(NH_4SO_4)十二

夕ヲ海水五升ニ溶解シ置キ晴天ノ干潮時ニ黒子島同様二月二十八日ヨリ五月三十日迄ノ間ニ合計七回施肥シ他方六坪ノ無施肥區ト比較セントシタリ

成績

一、金ヶ瀬 昭和五年五月二十八日收納シタルニ施肥區ハ無施肥區ヨリ成育状態悪キニモカ、ワラズ無施肥區ニ比シ一坪ニツキ四百三十二匁(乾)ノ增收ヲ見タリ無施肥區施肥區ノ海蘿ヲ任意ニ一匁(乾)宛採リ分枝數ヲ計上シタルニ前者ハ五百六十二枝後者ハ七百七十枝ヲ算シタリ

二、黒子島 昭和五年六月七日收納シタルヲ見ルニ施肥區ハ無施肥區ニ比シ一坪ニツキ百八十匁(乾)增收ヲ見タリ

三、唐船浦 收納期遅延ノタメ流失シ結果ヲ見ルヲ得ザリキ

本試験着手前適當ナル施肥ノ時期ヲ知ルタメ肝屬郡内浦村出張中同海岸着生ノふくろ海蘿ニ付其成長ヲ檢セシニ左ノ如ク

昭和四年二月四日

長 三分

同二十五日

長 五分

三月十六日

同一寸一分

同二十四日

同一寸六分

二月中ハ十日間ニ二分ノ成長ヲ見タルモ爾后其速度ハ進ミ二十日間ニ六分三月中下旬ノ八日間ニハ五分ノ成長ヲ見四月ニ入りテハ調査ノ機會ナカリシモ更ニ其成長速キハ推スニ難カラサルヲ以テ三月以降ニ施肥スルハ其前ニ爲スモノヨリ効果大ナリ猶試験ノ進行ニヨリ施肥ノ適期ヲ明ニスヘキモ之ヲ三月中ト見ルハ誤ナカルベシ

調 査 部

鱒回游路調査

趣 旨 鱒回游ノ方向及時期ハ鱒漁業ト密接ナル關係アルヲ以テ標識放流ニ因リ其方向時期成長度ヲ明ニセントシ前年ヨリ着手シ本年モ繼續施行セリ

放流經過成績

縣内各地ニ行ハル鱒飼付漁業者ノ協力ヲ得同漁場ニテ漁獲セルモノ、尾筒ニ標識ヲ附シ放流セリ

月 日	放 流 場 所	尾 數	標 識 番 號	肥 率
昭和四年十月三十日	出水郡阿久根町合會根	三	Dノ四七、四八、五一	體長一尺七寸乃至二尺三寸當日漁獲四九〇尾ノ内
同 十一月一日	川邊郡笠佐村野間池阿寶會根	五	Dノ四四、四六、四九、五〇、五四	體長二尺二寸乃至二尺四寸當日漁獲四一〇尾ノ内
同 十二月一日	肝屬郡佐多村佐多岬會根	五	Dノ三三、三三、三四、三五	體長二尺一寸乃至二尺四寸當日漁獲二四〇尾ノ内
計		一八		

前記標識放流鱒ノ内左ノ如ク再捕ヲ見タリ

出水郡阿久根町合會根放流ノ分(三尾ノ内)

昭和四年十二月九日同漁場ニテ一尾再捕(標識番號D 51)經過日數四十日

同 五年三月二十九日薩摩郡下飯村吹切大敷網ニテ一尾再捕(番號D 47)經過日數百六十日

川邊郡笠佐村野間池阿寶會根ノ分(五尾ノ内)

昭和四年十一月二十四日同漁場ニテ一尾再捕(番號D 49)經過日數三十二日

同 年十二月三日同漁場ニテ一尾再捕(番號D 50)經過日數五十三日

肝屬郡佐多村佐多岬會根ノ分(五尾ノ内)

昭和四年十二月十二日同漁場ニテ一尾再捕(番號D 36)經過日數十一日

同 年十二月二十三日同漁場ニテ一尾再捕(D番號30)經過日數二十二日

前年十一月二十月中阿久根片浦野間池伊座敷佐多ノ五漁場ニテ三尾乃至五尾計二十八尾放流セシモノ、内二尾カ本年ニ入り同一漁

場又ハ其附近ニテ再捕サレタルモノアルハ同年事業報告ニ記セルトコロニシテ其放流二十八尾ニ對シ再捕二尾ノ少數ナルニ反シ本年ハ阿久根野間池佐多岬ノ三漁場ノ放流十三尾ニ對シ再捕六尾ニシテ殆ンド半數ハ再捕セラレ内五尾ハ十一日乃至十三日迄ノ間ニ同一漁場ニテ再捕セラレ一尾ハ百六十日ヲ經テ漁場ヨリ南西約三十湮ヲ隔ツル大敷網ニ再捕サレタルモノニシテ此ニケ年ノ事實ヲ見ルトキハ

昭和三年放流鯽ノ再捕少數ナルハ放流期遅ク爾后ノ漁業期間短カリシニ因ルヘク本年ハ放流期早カリシタメ再捕數多カリシモノ、如シ

昭和三年放流鯽カ一年ヲ隔テ、同漁場又ハ其附近ニ再捕サレタルハ從來適水温ヲ追ヒ廣汎ノ距離ヲ洄游スルモノト考ヘラレタル事實ニ反シ其洄游圈ノ狭小ナリシモノト見ルノ外ナク珍シキ事實ナシ

昭和四年放流鯽カ長キハ五十三日ヲ經同漁場ニ再捕サレタルハ此間同漁場ニ滞游セシモノト見ラル

之等ハ猶ホ回ヲ重ネ資料ヲ豊富ニシタル后論斷スルヲ正確トスルモ以上ノ事實ノミニ由ルモ鯽飼付漁業期間ハ魚礁ヲ中心トスル滞游期間ニ相當シ一旦集マリシ鯽ハ殆ント礁ヲ離レサルモノ、如ク其期間后礁ヲ去リタル魚モ其近海ニ翌年迄モ滞游スルモノアルヲ知ラル、ナリ

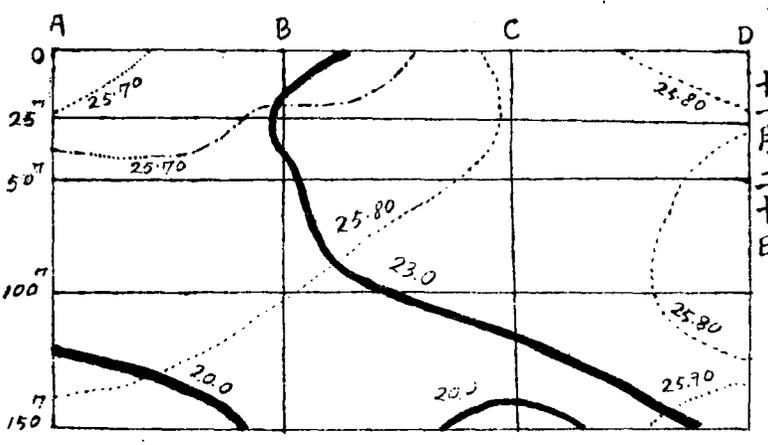
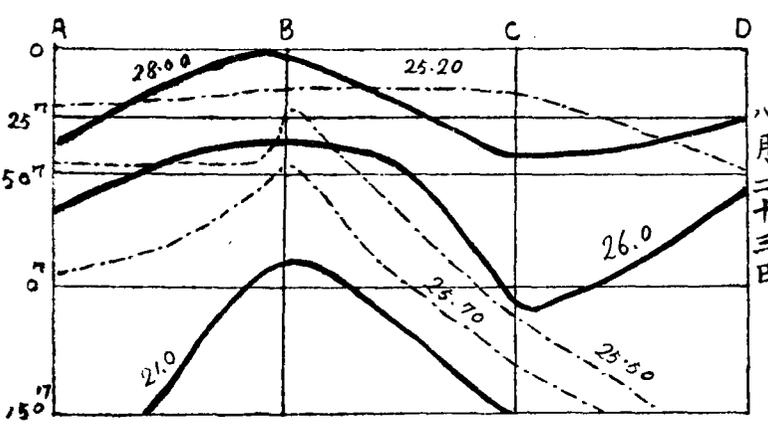
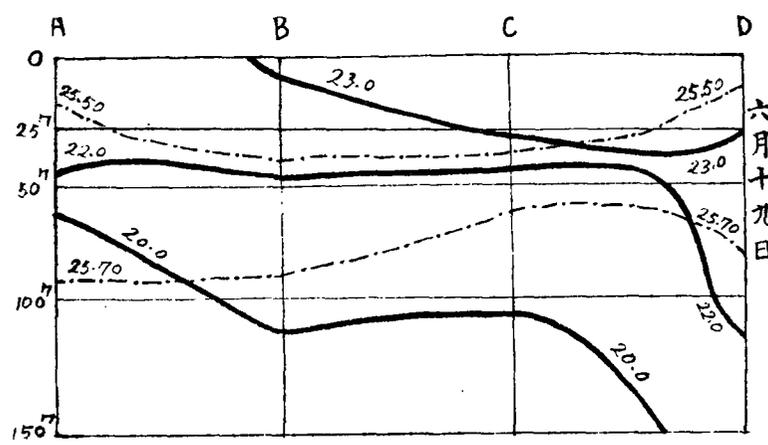
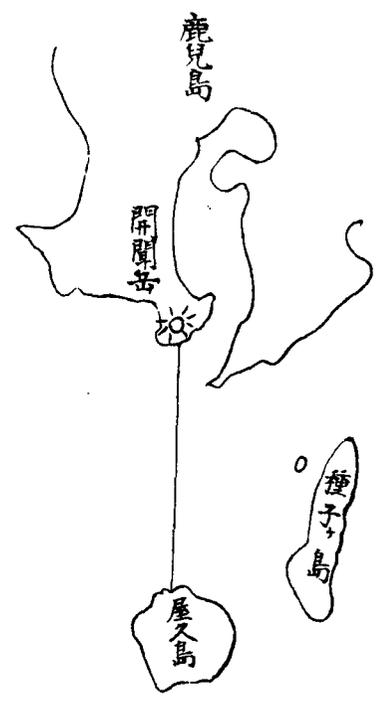
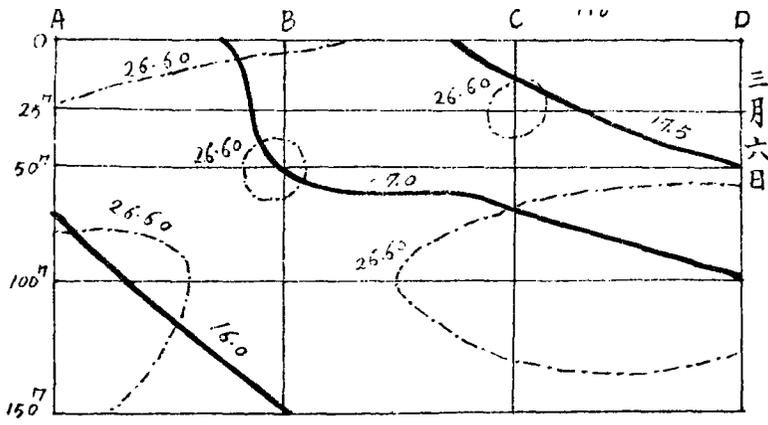
海洋觀測

本調査ハ海ノ性狀ヲ究明シ魚族ノ移動洄游産卵等ノ研究資料ニ供セントスルモノニシテ從來施行セルハ開聞岬ヨリ屋久島ニ至ル横斷觀測ト鹿兒島灣内沖小島西方ノ定点觀測ノ二種ナリ

(一) 開聞岬屋久島間横斷觀測

開聞岬屋久高間横斷觀測

月日	時分	場所	氣溫		水 溫 及 比 重				M) 透明度	流向	風向力	雲量	天氣
			表層	氣壓	25 米	50 米	100 米	150 米					
3,7	P.M 0,40	A	13,0 766	16,5 25,85	16,2 26,04	16,2 26,72	15,7 26,54	15,5 26,56	24	E	NNW 1	6	B
同	A.M 10,30	B	12,0 765	17,2 26,59	17,1 26,67	17,1 26,58	16,2 26,71	16,0 26,78	24	E	NNW 1	1	B
同	A.M 8,40	C		17,7 26,66	17,4 26,55	17,2 26,62	16,6 26,48	16,6 26,74	28	W/S	NNW 1	1	B
同	A.M 7,00	D	11,0 76,4	17,7 26,60	17,9 26,73	17,5 26,60	17,0 26,36	16,7 26,92	28	W	NNW 1	1	B
6,19	A.M 9,47	A	23,5 747	23,0 25,33	22,2 25,60	20,4 25,61	18,6 25,71	18,5 25,67	23	S	NW 2	6	B
同	A.M 11,26	B	23,4 747	23,4 25,33	23,3 25,42	21,2 25,56	20,4 25,76	21,1 25,59	26	E	NW 3	7	B
同	P.M 0,50	C	22,5 747	24,2 25,37	23,6 25,46	20,9 25,66	20,0 25,83	19,5 25,76	26	E	NW 3	5	B
同	P.M 2,15	D	24,5 747	24,8 25,46	23,9 25,60	22,8 25,67	22,2 25,97	21,1 25,80	24	E	NW 2	6	B
8,23	P.M 2,40	A	28,9 757	29,3 24,91	28,5 25,21	26,2 25,51	23,6 25,73	22,8 25,81	34	NE	NNW 2	3	B
同	P.M 1,01	B	27,3 757	28,1 25,11	27,0 25,51	25,5 25,71	20,5 25,97	19,4 26,07	35	E	NNW 2	3	B
同	A.M 11,20	C	28,0 757	28,9 25,14	28,7 25,24	27,7 25,21	27,0 25,21	21,0 25,91	32	SE	NW 2	3	B
同	A.M 9,44	D	28,8 757	29,1 25,01	28,5 25,08	26,7 25,38	23,3 25,31	21,3 25,04	33	E	NW 2	4	B
11,20	A.M 9,25	A	16,4 766	22,5 25,74	22,5 25,69	22,0 25,70	22,0 25,78	18,4 25,81	28	E	ENE 2	10	C
同	A.M 11,6	B	18,0 766	22,6 25,61	23,0 25,74	22,9 25,74	22,8 25,80	22,2 25,81	24	E	ES	9	C
同	P.M 0,48	C	19,5 966	23,9 25,28	23,8 25,80	23,7 25,86	23,2 25,81	19,4 25,87	25	E	ES 1	4	B
同	P.M 2,48	D	19,8 760	23,9 25,77	23,9 25,82	23,9 25,72	23,8 25,87	23,3 25,93	28		ESE 1	4	B



水 温 三月上旬ノ等温線ハ南部ニ向ツテ傾斜シテ居ル十六度線ハ七十五米層邊ヨリB測点百五十米深ニ向ツテ傾キ十七度

線ハA B点間表層ヨリD測百米深ニ傾キ十七度五分線ハB C測点間表層ヨリD測点五十米深ニ及ビ水温ノ分布状態單調ナリ六月中旬ニ至レバ表層水温ノ上昇早ク既ニ二十三度線ガB測点表層ヨリD測点下三十五米深ニ傾クモ下層ハ二十度線ガA測点六十米深ヨリC D測点間百五十米深ニ達シテ居ル以上ノ如ク等温線ハ一般ニ南方ニ傾ク傾向ヲ有スルモD測点テハ四十米深アタリヨリ下層ニ至ルマデ等温線ハ南方ニ急ニ北方ニ緩カナル傾斜ヲ爲セリコレC点附近ニ海底ヨリ凡ソ百米ノ高度ヲ有スル層根ニ衝突シタル下層水ガ四十米深邊マデ影響シタルモノト考ヘラル

八月下旬ノ觀測ニ依レバ二十八度以上ノ水温ハ表層ニアリテ下層水ハ平均二十一度一分ヲ示シテ居ル等温線ハ相等曲線ヲ形成シB測点デハ各層ヲ通シテ南北ニ等温線ガ傾斜スルヲ以テ下層水流ノ上昇ガ相當顯著ニ現ハレテ居ル事ガ察セラレル

十一月下旬ニ至レバ百米層以上ハ二十二三度臺ノ水温ヲ示シ等温線モ從來ト類ヲ異ニシ百米層迄ハ大方垂直的傾向ヲトリ百米以深ハ南方ニ向ツテ緩カナル傾斜ヲナシテ居ル

比 重 三月上旬ノ比重ハ沿岸帶ヨリ二六、六ノ高比重水ガ大部分ニ及ンデ分布シテ居リ六月中旬ニハ上層下層共低下シ二十五米層以上ハ二五、五以下ノ比重デアリ百米深五十米深間ハ二五、七ノ比重水ガ分布シテ居ル八月下旬ノ比重ハ益々低下シ二五、二ノ等比重線ハ五十米層以上ニ分布シ二五、七ノ等比重線ハ五十米以深ニ分布シテ居ルB測点ニ於ケル二五、五及二五、七ノ等比重線ハ南北ニ傾斜シテ居テ高比重水ノ下層流ノ上并ヲ現シテ居ル十一月下旬ニ入りテハ比重ハ相當回復シテ大部分ニ亘ツテ二五、七乃至二五、八ノ比重水ガ存在シテ居ル

(二) 鹿兒島灣内定点觀測

觀測場所ハ鹿兒島港外沖小島沖エシテ海ノ周期的變化ヲ調査スルモノニシテ之ガ連年ニ及ブ時ハ該水域ノ個性ヲ指示スルノミナラズ外洋一般状態ヲ推知シ得ル性質ノモノナル故本年度ニ於イテモ月三回ヲ標準トシ觀測セリ

表面水溫 一月上旬ニハ十七度二分ヲ示シタリシガ其後漸次下降シ三月一日ニハ十三度三分ノ低溫ヲ示シ以後昇騰ヲ續ケ八月上旬ニ至リテ最高二十九度八分ヲ示セリ

定点觀測表

(昭和四年度)

月	日	時分	氣溫	水溫	比	重	透明度	潮沙	風向力	天氣	月齡	記	事
一月	四日	二時六分	九.八	二五.八	二七.一	一.七	二五.〇	一六	E	W	二		
一月	十四日	〇時一〇分	七.五	二五.〇	二七.七	一.七	二五.七	一四	E	C			
一月	三十日	八時一八分	三.三	二二.二	二六.一	一.九	二二.一	一七	F	B	一		大羽鯉灣奥部ニマデ大漁アリ
二月	二十日	〇時〇〇分	九.五	二二.三	二五.五	一.二	二二.三	一八	F	C	一		大羽鯉灣内各地相當漁アリ
三月	一日	一時一六分	七.三	二二.二	二五.四	一.二	二二.二	一三	E	W	二		
三月	十四日	二時〇〇分	一.〇	二二.〇	二六.〇	一.〇	二二.〇	一三	E	C	二		
三月	三十日	〇時一〇分	一.〇	二二.五	二六.五	一.〇	二二.五	七	F	C	一		櫻島附近大羽鯉大漁アリ
四月	十日	〇時二〇分	一.六	二二.九	二七.一	一.二	二二.九	一〇	E	W	三		
四月	十九日	〇時一〇分	一.〇	二二.六	二七.〇	一.四	二二.六	一〇	E	BC	三		
四月	二十六日	一〇時一〇分	〇.三	二二.三	二七.三	一.〇	二二.三	二	E	C	二		
五月	八日	〇時〇〇分	一.七	二二.六	二七.六	一.〇	二二.六	一六	F	C	一		

種別	昭和四年一月一日	昭和三年一月一日	昭和二年一月一日	昭和元年一月一日	大正十四年一月一日
十月十四日 PM	三二六 二四八 二五五 二四七 二二〇	二四七 二四七 二四七 二四七 二四七	二四七 二四七 二四七 二四七 二四七	二四七 二四七 二四七 二四七 二四七	二四七 二四七 二四七 二四七 二四七
十月二十九日 AM	三二六 二四八 二五五 二四七 二二〇	二四七 二四七 二四七 二四七 二四七	二四七 二四七 二四七 二四七 二四七	二四七 二四七 二四七 二四七 二四七	二四七 二四七 二四七 二四七 二四七
十一月七日 PM	三二六 二四八 二五五 二四七 二二〇	二四七 二四七 二四七 二四七 二四七	二四七 二四七 二四七 二四七 二四七	二四七 二四七 二四七 二四七 二四七	二四七 二四七 二四七 二四七 二四七
十一月十九日 PM	三二六 二四八 二五五 二四七 二二〇	二四七 二四七 二四七 二四七 二四七	二四七 二四七 二四七 二四七 二四七	二四七 二四七 二四七 二四七 二四七	二四七 二四七 二四七 二四七 二四七
十二月二十八日 PM	三二六 二四八 二五五 二四七 二二〇	二四七 二四七 二四七 二四七 二四七	二四七 二四七 二四七 二四七 二四七	二四七 二四七 二四七 二四七 二四七	二四七 二四七 二四七 二四七 二四七
十二月九日 PM	三二六 二四八 二五五 二四七 二二〇	二四七 二四七 二四七 二四七 二四七	二四七 二四七 二四七 二四七 二四七	二四七 二四七 二四七 二四七 二四七	二四七 二四七 二四七 二四七 二四七
十二月十八日 AM	三二六 二四八 二五五 二四七 二二〇	二四七 二四七 二四七 二四七 二四七	二四七 二四七 二四七 二四七 二四七	二四七 二四七 二四七 二四七 二四七	二四七 二四七 二四七 二四七 二四七
十二月二十八日 AM	三二六 二四八 二五五 二四七 二二〇	二四七 二四七 二四七 二四七 二四七	二四七 二四七 二四七 二四七 二四七	二四七 二四七 二四七 二四七 二四七	二四七 二四七 二四七 二四七 二四七

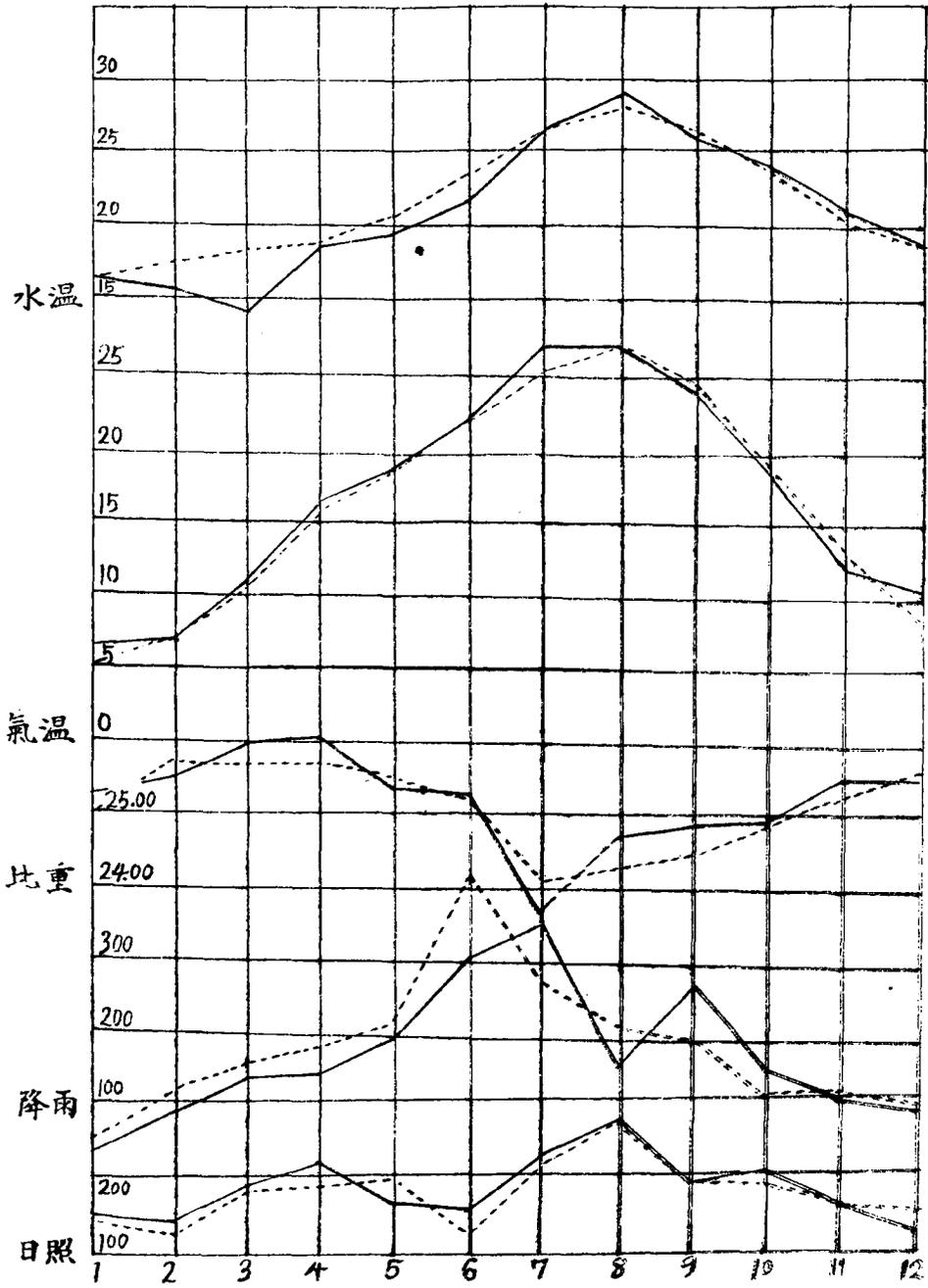
濠外佐多地方鮭魚初マル(流網)
濠目太刀魚鯉小鯛カマス漁相當アリ

濠内八駄網引續不漁

表面水温	種別	昭和四年一月一日		昭和三年一月一日		昭和二年一月一日		昭和元年一月一日		大正十四年一月一日	
		最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低
		二九、八	一五、三	二八、九	一五、五	二九、〇	一五、〇	二九、九	一五、〇	二九、〇	一五、〇
		八、五	三、一	七、七	三、一	七、三	三、一	八、三	三、一	八、二	三、一
		二五、八	一五、三	二五、九	一五、五	二六、〇	一五、〇	二六、〇	一五、〇	二六、〇	一五、〇
		七、七	三、一	七、七	三、一	七、三	三、一	八、三	三、一	八、二	三、一
		二五、〇	一五、〇	二五、〇	一五、〇	二五、〇	一五、〇	二五、〇	一五、〇	二五、〇	一五、〇
		七、三	三、一	七、三	三、一	七、三	三、一	七、三	三、一	七、三	三、一
		二九、〇	一五、〇	二九、〇	一五、〇	二九、〇	一五、〇	二九、〇	一五、〇	二九、〇	一五、〇
		八、二	三、一	八、二	三、一	八、二	三、一	八、二	三、一	八、二	三、一
		二四、九	一四、九	二四、九	一四、九	二四、九	一四、九	二四、九	一四、九	二四、九	一四、九
		八、二	三、一	八、二	三、一	八、二	三、一	八、二	三、一	八、二	三、一

下層水温 七十五米層ニアツテハ一月上旬十六度九分ニシテ三月下旬ニハ十五度ノ最低温ヲ示シ且ツ上下層同温トナレリ以
 後上層水温ノ上昇早キニ比シ下層ノソレハ緩漫ニシテ八月上旬ニハ表面水温トノ最大差十二度八分ヲ示シタリ表面水温ハ既ニ
 下降シ初ムルモ下層水ハ十月上旬ニ最高二十四度トナリ年末ニハ十八度五分ニ下降シタリ

氣温表面水温比重及降雨日照'變化



昭和四年 平年
氣温日照 降雨 鹿兒島灣候所觀測ニヨル

種別	昭和四年		昭和三年		昭和二年		昭和元年		大正十四年	
	示度	月日	示度	月日	示度	月日	示度	月日	示度	月日
下層水温	最高	二四・〇	二五・〇	八・三	一〇・一〇	三三・〇	三三・三	二〇・〇	八・一	
	最低	一五・五	一四・九	二・八	一四・七	一五・五	一四・〇	一五・〇	一五・六	

表面比重

一月上旬ヨリ二月下旬迄ハ二五〇臺ナリシカ四月中旬ニハ二六六ノ最高ヲ示シ以後下降シ初メ七月中旬ニハ二二、四ノ最低ヲ現ハシ年末ニハ二五〇臺ニ回復シタリ

下層比重

七五米層比重變化ノ有様ハ表面比重ノ變化ト軌ヲ一ニシ一般ニ表面比重ヨリ〇〇三内外高キヲ例トセリ

透明度

一、二月ハ透明度最大ニシテ十四米乃至十八米ヲ示シ三月以後八月下旬迄六米乃至十六米ノ間ヲ上下シ九月エハ十五米乃至十八米トナリ以後十米乃至十四米ノ間ヲ上下シタリ

總 收 本年度ノ海況ヲ要約スルニ沿岸ニ壓迫スル黒潮ノ勢力微弱ナリシト冬期及春期シベリヤ大陸ニ於ケル高氣壓ノ發達顯著ナリシタメ一月中旬ヨリ七月下旬ニ及ンデ平年ヨリ五分乃至一度五分ノ低溫ヲ持續シタルタメ沿岸各地ノ鯛盛漁期ハ約半月ノ遲延ヲ來タシ大羽鰺ノ入込ハ鹿兒島灣内奥深クマデ及ブラ見タリ八月中旬以後ノ沿岸及近海水溫ハ例年ヨリ多少高溫ヲ示シツ、年末ニ至レリ年前半ニ低水溫ナリシト比較シテ興味アル現象ト云フベク比重ハ平年ニ比シテ年前半ニ稍高ク後年ニ多少低カリキ

以上ノ觀測及漁業試驗ノ際隨時隨所ニテ觀測セル材料ヲ參考シ本年ノ海況ヲ見ルトキハ

薩南海區ニ於ケル暖流ハ一月ハ未ダ其ノ勢ヲ見ス例年二月頃ヨリ漸次北上スルモ高氣壓ハ大陸ニ在リ北西ノ季節風卓越セルタメ其ノ勢ヲ折カレテ伸ヒス四月高氣壓ノ稍衰ヘタル際北上ノ勢現ハレシモ再ヒ高氣壓ノ復セシタメ充分ナラス五月大陸ニ在リシ高氣壓ハ東漸シ臺灣附近ニ起リシ低氣壓カ屢々九州東西岸ヲ通過スルニ及ヒ勢ヲ増シ爾後八月迄其傾向ヲ持續シ九月后漸次勢力減セルモ大陸高氣壓ノ勢力弱キタメ十二月ニ至ル迄其ノ影響ヲ存セリ

鹿兒島灣ノ定点觀測モ之ニ準シ一月以後前年ヨリ低溫ニシテ五月外海ニ於テ北上勢力加ハレル暖流ノ影響モ灣内ニ及ホセルモノハ未タ微々トシテ六月迄ハ前年ヨリ低溫トナリ七月以降ハ高溫トナリ九月以降ハ低下ノ度緩ニシテ前年ヨリ稍高溫ヲ持續セリ

而シテ主ナル魚種ノ本年漁況ヲ見ルトキハ次ノ如ク

鰹漁 二月ヨリ出漁シ六月迄ヲ盛漁季トスルモ本年ハ四五月中好漁ヲ見タルノミニテ前年ヨリ減シ七月以降十一月迄ノ間ニ於テハ八九月稍好漁アリタルモ全年ヲ通スレハ二割ノ減漁トナレリ

鰯漁 垂口鰯ハ略ホ周年ニ亘リ平子鰯ハ五月以降夏季中ヲ漁季トスルカ本年ハ概シテ好漁ニテ鰹漁ニ用フル餌鰯(垂口鰯ヲ主トス)ノ如キハ供給潤澤ナリシ潤目鰯ハ八月ヨリ十二月迄漁獲アリシモ前年ニ比スレハ稍減漁トナリ大羽鰯ハ一月下旬ヨリ豊漁トナリ三月下旬ニ亘リ平年漁トナリ鹿兒島灣ノ如キ灣奥マテモ入込ヲ見タリ十二月ハ例年ナラバ多少漁獲始ルモ本年ハ全ク漁獲ナシ

鯖漁 屋久島近海ハ主要ナル漁場ニシテ周年從事シ三月ヨリ六月ヲ盛期トスルモ本年ハ魚群少ク前年ニ比シ著シク薄漁トナレリ

旗魚 薩南海面ノ旗魚ハ六月ヨリ十一月ノ間盛夏ヲ除キ漁獲ヲ見ルカ本年ハ六月中好漁ヲ見タルモ其他ハ平年漁ニ了ハリ長崎縣五島漁場ハ九月后好漁ヲ見タリ

鮪漁 種子島大島近海ヲ漁場トシ一月ヨリ二三月及十月ヨリ十二月迄行ハレ大島漁場ハ十月ヨリ十一月ニ亘リさわだめばチノ好漁ヲ見タルモ永續セス種子島附近ハ一月ヨリ二月ハ黒鮪ノ漁獲多カリシタメ好漁ニ了ハレリ

鱒漁 大敷網ハ二月ヨリ五月中敷設シ本年ヶ所漁業セルモ三月中二三好漁ヲ見タルモノアルノミニテ概シテ薄漁ニ終リ鱒飼付ハ十月ヨリ十二月中各地ニ行ハル、モ本年 所中好漁ヲ見タルハ西薩北部及佐多岬附近ニシテ前年ト同ジク薄漁ナリ

鯛漁 二月ヨリ五月頃迄ヲ主漁期トシ本年一二月ハ好漁三月ハ衰へ四月稍恢復セシモ漸次終漁季ニ入り後十二月稍好漁アリ概シテ平年魚ナリ

瀬魚 冬季間ヲ漁季トセルカ本年ハ十二月稍ヤ好漁ヲ見タルモ全体ニ於テハ薄漁ナリ之ヲ觀測ト對照スルトキ

鯉漁ハ暖流ノ擡頭遲レタルタメ春ノ好漁季ヲ失セルコトカ減收ヲ來シ鯖漁業モ亦之ニ因シ漁場ニ於テ潮向ノ不整ヲ來シ薄漁トナリ旗魚漁ノ六月好漁ヲ見タルハ寧ロ此ノ潮向ノ不整カ幸シタルモノノ如ク鱒漁中大敷網ノ不漁ハ水溫低キタメ適温ノ期間長カリシモ高氣壓ノ卓越セシタメ網乗ノ誘因少カリシニ外ナラス之ニ反シ鱒漁ノ割合ニ好調タリシハ初季低水溫ヲ生シ沿岸ニハ暖流ノ影響遲緩ナリシニ因ルモノト見ルヘク大体ニ高濕水ノ勢相當強キヲ利トスル漁業ハ本年ハ春夏ニ於テ不況ヲ見秋季ニ至リ順況トナリ之ニ反シ沿岸冷水ノ勢強キヲ利トスル種類ハ春夏好況ヲ見タルモ秋季ニ於テハ前年ヨリモ不利ヲ免レサリシナリ

漁獲ハ目的トスル魚種ノ蕃殖ノ多少カ漁況ヲ左右スル一半ノ原因ニシテ前記述ハ此点ニ觸レサルモ他ノ一半カ海況ニ支配サル、ハ疑ナク本縣ノ如キ暖流北上ノ衝点ニアル地形トシテハ暖流ノ季ニ應スル北上勢力ノ消長順ナルト否トハ著シク漁況ヲ支配セリ

重要魚漁獲調査

昭和三年度ヨリ海洋調査資料トシテ各縣トモ國立水産試驗場ニ連絡シ漁獲調査ヲ爲スコト、ナリ其方法ハ一定ノ調査地ニテ各月上中下旬ニ分テ定メタル漁種ノ漁獲高(尾數、質數、價格)漁場、平均漁獲高、魚体ノ大小等ヲ調査スルモノニシテ之ヲ重要

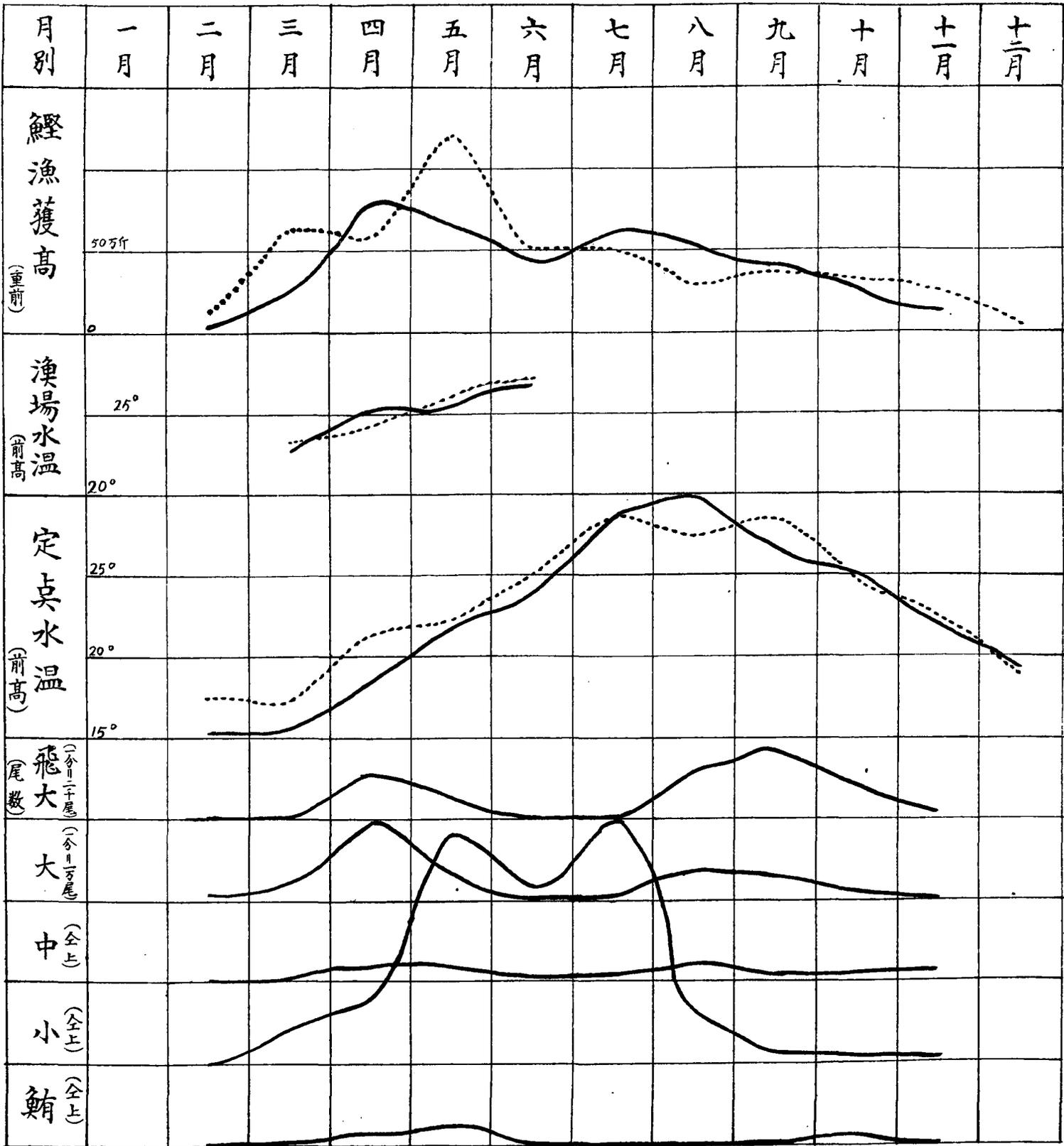
魚種ノ各ニ亘リ爲スヲ必要トスルモ其漁獲物カ一定ノヶ所ニ集ルモノニ非サル限リ調査極メテ困難ナルカユヘ本場ニテハ枕崎漁業組合ノ協賛ヲ求メ同組合所屬船ノ鯉漁獲ノミニ付之ヲ施行シツ、アリ同地船ハ總テ其漁獲物ヲ所屬共同販賣所ニテ競賣シ帳簿ノ記載正確ニシテ本調査ノ目的ニ副ヒ其數字ハ信憑スヘキモノナリ以下其調査數字ヲ揚ケ之ニ對スル意見ヲ記述スヘシ

鯉 漁 獲 表

昭和三年

月	漁獲			漁船延航 數	魚 體				
	尾數	斤數	高 價		飛 大 尾	大 尾	中 尾	小 尾	體 尾
二月	一六、七四〇	一〇八、七九	五元、四四	一四	五八二	一〇、六九	四、六七	四九二	五九六
三月	一〇一、六〇〇	六五、七四	一八八、三〇	六〇	二、一九	三三、五二	二七、七七	二五、九一	四、六四
四月	一五、五九九	五九八、二五	一六七、三八一	六〇	二、一九	二七、〇三	三〇、八六	五四、八二	六、七一
五月	二七、八四八	一、一九九、六五	三九七、八四	七六	二、九六	三三、九〇	三三、四〇	八七、四三	三、八七
六月	八一、六九一	五二四、三三	一五九、一七	六二	一、九七	三〇、六二	二五、三三	三二、二六	三、八七
七月	八三、五六四	四九八、八七	一四一、七三	五五	一、〇一	二八、八九	二八、七四	二一、八五	二、三三
八月	五七、三三七	二一七、六三	一四一、七三	四三	三、〇〇	六、四六	二、	二四、三四	一、二六
九月	四九、〇七三	三三〇、八二	八〇、九七	四三	七〇七	三、七六	二、	八三、六三	三、〇〇
十月	五八、七〇八	四三〇、七二	八九、九七	四一	一、七一	一〇、〇九	一六、六三	四、六四	四、九二
十一月	三、三六八	一、三二	七九、三三	三三	一、七三	一、七三	一六、二七	三、	六、
十二月	三、五六八	〇〇〇、五三	二二、六六	六	八〇	二、二五	三、	三、	一、
計	八七〇、七七	四八〇、七七	二九三、六八	四六	一九、九〇	二〇、九四	二二、〇七	二五九、六八	六、八七

昭和四年鯉漁業卜水温 (黒實線四号) (黒点線三号)



前二ケ年ノ各月ノ総漁獲高及各体型別ノ漁獲高ヲ曲線ニ現ハシ漁場及鹿兒島灣定点ノ表面水温ヲ配スルトキハ別圖ノ如ク総漁獲高ニ於テハ兩年ヲ比較スレハ水温低キ月ニハ漁獲減シ高キ月ニハ増加セルコトヲ示シ前項海洋觀測ノ総收ニ記セル如ク暖流ノ消長カ漁獲ノ大体ヲ支配スルヲ認メラル

各月ニ漁獲サレタル鯉魚体ヲ比較スルトキハ

二月 昭和四年ハ前年ニ比シ各種共少ク飛大版ハ全ク漁獲ナシ

三月 小版ハ若干増加セルモ其他各種少シ

四月 飛大、大版ト鮪ハ増加セルモ其他少シ

五月 小版ハ増加セルモ其他少シ

六七月 同 前

八月 飛大、大、小ハ増加セルモ中少シ

九月 飛大、大ハ増加セルモ中小少シ

十月 飛大、小ハ増加セルモ大中少シ

十一月 飛大若干多カリシモ其他各種少シ

十二月 出漁セズ

以上ノ如ク飛大ト大版ハ約一二月後レタルモ春季ハ前年ヨリ多ク秋季亦同様ナリシタメ前年ヨリ増獲トナリ中版ノ各月ヲ通シテ前年ヨリ減漁トナリ小版ハ五月ヨリ八月好漁ノタメ増獲トナリ鮪ハ略ホ前年ニ同シ鯉魚体ノ大小ハ年齢ニ基ツキ未タ的確ニテ知ル能ハサルモ出現季ト体形ヨリ想像スルトキハ小版ハ前年産卵ノモノニテ二年生ニ當リ中版ハ前年初夏産卵ニカ、ル二年生又ハ三年生ニ大版飛大ハ四年生以上ノモノ、如ク之ニヨリ推スレハ本年各月ヲ通シ中版ノ少カリシハ前年初夏又ハ前々年ノ産卵不良ナリシニ由ルカ暖流ノ消長以外ニ其産卵發生ノ如何ニ基因スルモノアルコト窺ハル、モ未タ之ヲ説明スヘキ資料乏シキヲ以テ之ハ今后ノ調査ニ待ツヘシ

鯉体型ノ月別變化ヲ見ルトキ飛大ノ漁獲ハ三月ヨリ増加シ四月最高ニ達シ以後下リテ六七月ニ最低ヲ示シ八月ヨリ上リテ九月

最高トナリ緩低下ス之ヲ水温ヨリ見ルトキハ春ノ最高ト秋ノ最高ヲ示ストキノモノ同一ナラサルヲ以テ此出現ヲ促スモノハ水温ノミノ關係ト見ル能ハス察スルニ同期ハ産卵直前又ハ直後ノモノ稀ニハ産卵中ノモノヲ見ルユヘ産卵ト相關スルモノ、如ク假リニ如斯春秋ニ増加シ夏季ニ低キ圖中ノ曲線ヲ産卵回游型曲線ト名ツクルトキ大版中版モ稍ヤ此曲線ニ準シ小版ニ至リテハ全ク之ニ反シ五月ニ増加シ六月稍ヤ減シ七月再ヒ増シ春秋ニ低ク夏季ニ高キハ未ダ産卵ノ相關ナク恰モ此季ハ洋中ノ天然餌料減シ漁獲近クニ求ムル外ナク之ニ集ル結果漁獲ノ増加スルニ由ルモノニシテ之ヲ求餌回游型曲線ト名クルヲ得ヘシ

海
底
調
查

海底調査

本調査ハ大正十一年中試験船ノ船操可能ノ期間隨時施行セシモノニテ海底ノ狀況ヲ明ニシ地方漁業開發ノ資料ヲ得ントスルニ在リテ調査範圍ハ百尋深以內トシ五十尋以內ハ一哩其他ハ二哩毎ニ特ニ漁場トシテ必要ナル部分ハ半哩毎ニテ豫メ航走線網ヲ作成シ測点ヲ可及ノ一様ニ分布セシムル如クセリ

測深機ハ手動ルーカス式ニヨリ鍾測シ探泥器ハ丸川式ヲ用ヒ採收シタル底質ハ布片ニ包ミ記號ヲ附シテ乾燥セシメ更ニ砂泥淘汰器ニヨリ直徑三耗以上ヲ礫一耗以上三耗未滿ヲ大砂〇、五耗以上一耗未滿ヲ中砂〇、二耗以上〇、五耗未滿小砂〇、〇五耗以上〇、二耗未滿ヲ細砂〇、〇五耗以下ヲ泥トシ各種ノ重量ヲ百分率ニテ表ハセリ

調査セル區域ハ大正十年七月ヨリ九月中ニ亘リ八代海西薩海北部(出水郡沖)鹿兒島灣北部ヲ丁ハリ同十一年五月ヨリ十月中ニ亘リ鹿兒島灣南部西薩海南部(日置郡沖)ノ調査ヲ終了セリ

以下調査ノ概要ヲ記述スヘシ圖表調製ノ便宜上測点圖ハ省略シ又底質圖ニ於テハ大中砂ヲ大砂トシ小砂ヲ小砂トシ其割合ニ多キモノ、ミヲ示セリ

鹿兒島灣

鹿兒島灣ハ薩摩大隅兩國ノ間ニ介シ南北ニ延長シ南ニ口ヲ開キ外洋ニ通シ全灣海岸線ノ延長ハ百海里ニ及フ中央櫻島ニヨリ南北ニ別ル、ユヘ之ヲ南灣北灣トシ更ニ兩灣ヲ通スル海峽及南灣ト外海トノ間ヲ灣口部トシ此四海區ヨリ成ル

面積 本灣全部ノ面積ハ概測三百七十八平方海里ニシテ各區ニ別テハ

灣口部 立目崎長崎鼻見通以北神ノ川ヨリ知林島見通迄

南灣 神ノ川ヨリ知林島見通以北沖小島迄

九十五平方海里

百九十二平方海里

海峽部 沖小島以北櫻島武ヨリ三船崎見通迄

十五平方

北 灣 櫻島武ヨリ三船見通以北ノ灣

七十六平方海里

此総面積ヲ他ノ海灣ニ比スレハ熊本縣三角港以北ノ有明灣全部ヨリ稍ヤ小ナル位ナリ

水深 灣口部ハ兩岸ヨリ緩傾斜ヲナシ中央部稍ヤ深キモ殆ント六十尋以内ニシテ最モ淺キ線ハ五十五尋ナリ南灣ハ中央部

ニ南北ニ亘リ凹窪セルトコロアリテ最深百二十五尋ニ達シ周圍ヨリ之ニ向ツテ傾斜シ來リ陸岸ヨリ凹窪部マテハ三乃至五哩ヲ隔ツテ肝屬郡側ニテ垂水ノ南輕洲鼻及櫻島南沖小島附近ハ僅カニ二哩ニシテ達シ極メテ急傾斜ヲ爲セリ海峽部ハ灣口部ニ比シ幅狹ク海底平坦ニシテ淺ク大部分ハ三十尋以下ニシテ最モ淺キ線ハ二十尋ニ過キス南北灣ニ近クニ從ヒ深ク五十尋線ヲ見ルナリ北灣ハ流入スル河川ノ河口附近ヲ除キ海岸ヨリ急深トナリ六七尋以上ニテ牛根沖ニ百十尋ノ凹窪アルノ外概シテ平坦ナリ以上全灣ノ内百尋以上ノ深海ハ北灣ニ三方漕南灣口六十平方漕アルモ、普通底魚漁業ノ可能性アル百尋以下ノ水面ハ三百十五平方漕不能ト見做スヘキ夫以上ノ深海ハ六十三平方漕ニテ二割ニ當セリ

底質 灣口部ハ山川港外小根占沖等ハ小砂ナルモ知林島以南ノ指宿村地先及其他灣口ニ至ル大部分ハ大砂礫底ナリ

南灣ノ内谷山知林島間ハ稀ニ沿岸大砂アルモ大部分ハ小砂ニシテ百尋深以上モ同様ナリ垂水神ノ川間ハ稀ニ泥ヲ認ムルモ大部分小砂ナリ唯高須沖及大根占知林間ニ大砂礫底アリ垂水ヨリ沖小島ニ至ル櫻島南側ハ海峽ニ近キ部ハ大砂又ハ小砂ナルモ沖小島以東ハ一帯ニ黒又ハ帶綠色ノ泥ナリ

灣口部及南灣中ニ至ル底礁ノ主ナルモノ左ノ如シ

鹿兒島灣ノ南部漁礁

漁名	最近地名	位	置	漁礁及周縁收意	魚族及季節	採捕器具
ほときぎ根	川尻浦	キダカ會根ヨリ北西西二百間東岸 南西磯南佐多門南磯西分三京	地形ノ散置シテ周縁水深七十七尋、九十尋	五月、六月	網	
大魚ク	同	キダカ會根ノ北方六十間以内	島千二百間北ヨリ東南開闊岳ヨリ伊座敷ノ方北三十五 百間東北ヨリ西南へ八十間上二十九尋磯外六十六尋	六月、三月あかば ら六月かつきび	網	
きかか	同	川尻ノ南西磯南二十八丁ノ沖合ニアリ	東西長々島千二百間磯外水深三十六尋北方瀬落七十 五尋南方百尋磯南西アリ	あち	八田網	
そらク	同	キダカ會根ノ西南赤前島北西磯西長 島東二分ノ一南岸を磯南西磯南二分ノ 一南	東西四百間南北八百間磯外水深二十二尋中央ニ溝ク田 月ニ傾斜シタル山形ノ岩礁ナリ	しび	釣	
とげ出し	同	川尻南西二澤二分	周縁千四百間圓形ノ低礁ニシテ中央水深九十四尋南方 瀬落百尋線ニ移セリ	まつ鯛		
松ヶ瀬	同	川尻ヨリ南東四丁	北西ヨリ南東ニ六十間北東ヨリ西南十間水深十一尋底 質ノ礫	あち	八田網	
きだか瀬	同	カチカ瀬ノ西方三百間ニアリ	小 磯	たいめ五、六月		
瀬ヶク	稚兒水	長崎ノ東南々十六町	東南方六十間東北ヨリ西南五十間水深三十三尋一二十 七尋ニシテ南方瀬落四十一尋	ぶり二、三月たい四月 たいめ五月あち十一月 あかばら、いさき		
神ク	同	赤水鼻ヨリ南々東二澤	北西ヨリ東南ニ長ク水深二十三尋以内	ぶり二、三月たいめ五 月いさき六月かつを八 、九月あち、うるめ		

茅瀨 同	神瀨ノ西三丁以南	角曾根 山川港	山川港ヨリ東南ニ走ルニ渚ノ真	新瀨 同	同	新瀨 同	同	新瀨 同	同	沖 同	新瀨ヨリ南微東百五十間	へた 同	口ノ瀨南微東沖ノ瀨正西ニ在リ
南方淺ク東北ヨリ西南ニ長ク岩礁ニシテ水深二十五、六尋	新瀨沖ノ瀨下ノ瀨ヘタノ瀨等ノ総稱ニシテ形状四邊形ヲナスヲ以テ名付タリ八田船漁場ノ重要漁場ヲナシ礁上網ヲ使ヒ得ルハ沖ノ瀨及ヘタノ瀨ニシテ他ハ瀨上淺キタメ漁網ノ使用ニ適セズ	新瀨口ノ瀨ト基岩ヲ同シクシ東西兩端ニ雙立セル岩礁ニシテ西方ヲ口ノ瀨ト稱シ東方ヲ新瀨ト稱ス其ノ各頭角ノ間隔ハ四十尋位ニシテ口ノ瀨礁上最淺五十尋岩頭ノ廣サ四坪平滑ナリ	新瀨同上二十八尋兩者ノ中間ハ海深四十尋東方瀨落五十尋ニテ急傾斜ヲナシ南北兩側面ハ四十二尋ニシテ緩ナリ口ノ瀨西方瀨落十五尋ナリ	南北三百間東西二百間周六百間ノ楕圓形ノ岩礁ニシテ瀨上二十三尋瀨落シ四十二尋	周圍二百五十間圓形ノ瀨ニシテ瀨頭水深三十四尋瀨落四十尋ナリ	新瀨たい三、四月及八月、十月あら、あかばら	周年うるめ三、四、五、十、十一月	口ノ瀨むろ、さば十二、一、二月たい、いさ	き三、四月あら、かつを八、十月かつを、は	がつをいか、こしび	あぢ、さば、かつを、はがつを、そうだかつを、むろ、あぢ、あら、あかばら、ぶり、うるめ、たれくち、いわし	同	一本釣、延繩、捧受網、鰯撒餌釣

下	同	沖瀨ヨリ長崎島ニ向フテ六十四、五尋ノ處ニアリ	周圍二百間圓形ノ礁ニシテ礁上三十八尋瀬落四十二尋	同
ほとくりク	同	角瀨ヨリ南々西多長嶽東端北二分ノ一東股瀨西微北二分ノ一北	周圍四百五十間圓形ノ突兀タル岩礁ニシテ礁頭ノ水深四尋瀬落四十七尋	たい、いとより、あぢ、あら
笠	同	大崎鼻東ニ距ル七百間ノ處ニ在リ	小岩礁ノ連亘ナリ	ぼら
のムク	同	笠瀨ト大崎鼻ノ間ニ介在セル瀨	偏平周圍六百間ノ礁ニシテ水深四十七尋瀬落四十八一	いさき
くらだシク	同	ホトクリ瀨ノ正面三百三十間	五十尋	たい、いとより
股	同	股瀨ノ東南五百間	細長ク五百間水深八尋	いせえび
なつく	同	沖瀨ヨリ知林島ニ向フ	小岩礁ノ連亘ノ瀨ニシテ長サ五百間水深三十二尋	ぶり、たい
小曾根	同	山川港ヨリ東南東		ぶり
まつク	同	笠瀨ト小根占川トノ間小根占沖千七百間ノ處		
無名瀨	同	山川港ノ入口ニ在リ	礁上水深四十三尋岩礁少ク砂利ノ處多シ	たい、さわら
馳	同	立目崎ヨリ西北八丁	圓形ニシテ周圍三百間	たい、あら
ちか出し	島泊浦	立目崎ノ南島泊ニ偏セル海岸ヲ距ル六百間ノ處	礁上水深二十尋瀬落二十四五尋周圍五十間平坦ニシテ礫ヨリナル	むる、いさき、あら
大谷曾根	同	伊座敷沖合三丁	南北百間余東西六十間アリ北方ニ隆起シ南ニ緩傾斜ヲナス	あら、あかばらさば、いわし、しび
かくりク	伊座敷	伊座敷ノ北々西十八丁ニ在リ	周圍千間東西ニ長ク北西ニ凹凸多ク礁上水深三十四五尋乃至四十尋瀬落五十四五尋	たい三、四月あら、さわら八、九月より十、三月
小曾根	同	大曾根ト小曾根ノ間ニテ小曾根ヨリ四百間距離		一本釣
中	同			

大々	同	小倉根北方一帯	瀬上水深三十六尋深五十尋周圍千六百間圓形ヲナス 島上田ヨリ離レ最淺二十二尋深六十尋乃至七十尋 地方ハ急峻ニシテ南ニ鈴掛ノナシ	あぢ、たい、まわらぶ り、しび、あらいさき	延
戸	伊原嶺	伊原嶺大瀬ヨリ西三ノ間津瀬ノ東	東西七十間南北最廣五百間北ノ西角ハ岩壁立ク深澤 五十五間南西角ハ岩壁立ク深澤五十五間 東西角ハ急峻ニシテ南ニ鈴掛ノナシ 間八十尋深六十尋アリ北角ハ急峻ニシテ南ニ鈴掛ノナシ 間二百間ノ積メテ西キ岩壁立ク七十尋乃至八十尋ノ モノ今在リ最此ハ最急峻ニシテ南ニ鈴掛ノナシ	ボクノ十三月たい	延
か、りか	知林島	知林島ノ東南三百間ノ嶺南西微南二分 ノ一南小島北西二分一北	小磯ナリ		
知んちま	同	知林島 東方十一間大嶺南西微南四分 一南小島北西微西二分一西	東西五百五十間水深四十尋		
きつな	同	知林島東微南ノニ倉根ヨリ東南へ十五 丁ニアリ	東西四百五十間南北二百間水深十八尋北方ハ深ク六十 六尋以上トナリ南角トノ間ニテ二十ノ深小島トノ間ニ テ二十三尋	たい二、三月たいあ さかばら四、七月い わしあぢ	延 一本釣
いせ	同	知林島中央ノ島見津線ノ延長上ニ在 リ小島ヲ距テ北微西十五丁	北北(小島ト古江見津線)ニ長ク三百間西北ヨリ東南百 間低磯ニシテ水深五十尋	ぶり十二二月 たい三、七月 たいめ	延 一本釣
み、かく	同	小島ヨリ北東へ十三丁小島南西四分ノ 一西 知林島東端南西四分ノ三西	圓形ヲナシ直徑三百間余水深五十尋	まいわし、うるめ、 あぢ、はがつをあか ばら	延 一本釣
多良々	同	知林ト大根占間ニ在リ知林ヨリ二湊小 島北西二分ノ一西股港南西	周圍壹千間水深四十八尋礁上平坦ニシテ北方ニ深ク西 南ヨリ北東ニ稍長シ		八田綱
大々	同	知林ト高須トノ中央ヨリ稍知林島ニ歸 シ尾掛ヨリ東北微東二、五湊			一本釣

いま	大根占	大根占村神ノ川ノ中央海岸ヲ去ル半漕	南北ニ細長キ礁ニシテ其ノ長サ百間未滿深サ十二、三尋深サ十八尋	たい	延
布	同	輕沙鼻ヨリ開閉番ニ向フ	布ノ如キ長キ漕ニシテ幅十間長サ百間千四百間深サ七、八尋十二、三尋	たい	延
たこ	高須	高須ヨリ南西六百間	低礁ニシテ北方ハ稍長ク周四百間アリ	はめ	延
やはす	同	たこ瀬ノ西南四百間ニアリ	周八百間滿潮時礁頂水深五尺春季干潮時ニハ礁上現ハル	はめ	延
平	同	やはすノ南方二百間ニアリ	周壹千間礁上水深八尋	さば、あらたい、もう	延
はなの	同	へつせノ北方二百間小島西微南二分ノ一南高須鼻北微東二分ノ一東	周壹千間以上大干潮ニ礁頂露出ス	を	延
中	同	はなのせヨリ西北三丁崎鼻南東四分ノ一東高須鼻北微東二分ノ一東	周囘八百間小岩礁ノ集團ニシテ位置ハ竹崎鼻(坂元ト小濱トノ中間)		

此灣ハ海峽ヲ出タルトコロニ大砂礫底アリ小島ヨリ新島ニ向ヒ其以東ニ廣キ大砂礫底アリ又福山地先ニ大砂アル外小砂ナルモ面積ヨリ見レハ此灣ノ三分ノ一強ハ大砂又ハ礫底ニテ泥ノ部分ハ殆ントナキガ如キモ新島以北ノ大砂礫ハ櫻島爆發ノ際ニ噴出セル輕石及其破碎片ニシテ寧ロ泥底ト見ルヘキナリ 底礁ノ主ナルモノ左ノ如シ

鹿兒島灣北部漁礁

漁礁名	最近地名	位	漁礁及周縁ノ状態	魚族期節	使用漁具
かゝり瀬	牛根村境	新島北端東微北若御子崎南々西沖小島南東微南四分ノ三南	東側六百尋北側千尋西側二千尋南側千二百尋低體ヲ基礎トシ三箇ノ岩礁アリ西方ヨリ、たいめぜ、かゝりぜ、たかもとぜト稱シ概木礫ヨリナル中央部四十五尋カゝりぜノ西側八十七尋	しび、あらたい あまだい	延 一本釣
おき	同	若御子崎南微西四分ノ一西沖小島南々東浮津鼻西微南	東西七百尋南北千五百尋南端最峻嶮ニシテ西側ニ傾斜ス最淺部水深二尋	あらい	延 一本釣
ふけ	同	浮津鼻北微東四分ノ三東新島西微南	陸地ヨリ逼川シタル礫低盤周圍二千尋礁上四十尋	たい、ぶり、はかつを	同
いま	同	浮津鼻東微北新島南東四分ノ一南	周圍壹千二百尋ノ岩礁ニシテ最淺十五尋	あら、たい	同

ちどり瀬	同	浮津鼻西微南二分ノ一南新島南東二分ノ一南	周圍壹千尋東西ニ廣ク南北ニ狭小シ最淺部二十尋其ノ他六十尋トス	あら、たい、はつさ	同
かんぐちク	同	浮津鼻ヨリ連續ス	東西 尋南北三百尋礁上五十尋ニシテ陸地ニ連續ス	あ	
たざりク	福山町	若御子崎ヨリ南浮津鼻北微東四分ノ一東新島北	南部ヲわさぜト稱ス東西八百尋南北千尋西部高峻ニシテ北東部ニ傾斜シ低盤ニ終ル礁上六十尋最淺四十尋礁外ハ海深百尋	たい、めばちくぢら とうし、あぢ	延繩、一本釣、八田網
東山ク	同	新島北端北東浮津鼻北西微南若御子崎南西二分ノ一西	北側五百尋西側六百尋南西四百尋東側六百尋四邊ノ中部ニ灣曲ヲ有スル低盤ニシテ中央岩礁上水深六十二尋トス	たい、めばちくぢら とうし、たち	延繩一本釣
ふともとク	同	若御子崎南浮津鼻北微東沖小島東南東	東側六百尋北縁四百尋南縁ニ狭小セラレタル三角形ヲナス岩礁ニシテ中央最モ峻立シ水深六十尋	あまだい、たい	同
くりク	敷根村	若御子崎ヨリ西微地へ突出連亘	陸地ヨリ突出シ南地三百尋東西六百尋水深三十五尋	ぶり、たい、いわし すばた	延繩一本釣八田網
のゝク	同	若御子崎ヨリ西浮津鼻北新島北端北東微東	東西千二百尋南北三百尋西南端岩礁最モ峻嶮ニシテ東方ニ向ヒ漸次低盤ヲナス水深七十尋	たい、たいめ いわし、すばた	同
つりかゝりク	同	若御子崎沖小島見透線上ニテ沖小島ヨリ一連東			
ひら瀬	西櫻島村	石割崎西大崎鼻南東	東西二百尋南北五十尋東部五十尋岩礁ニシテ海立二十三尋西部ハ泥質	あぢ、たい	同
たちうおば(こめんまい)	同	石割崎北東微北四分ノ三大崎鼻東二分ノ一南	東西千五百尋南北二百五十尋四周岩質ニヨリテ圍マレ幅百尋中央泥質ニシテ水深百〇五尋岩壁部北部水深九十尋南方七十五尋ニシテ陸地ニ向ヒ連綿スルモノノ如シ		
無名瀬	鹽屋	大崎南々西石割東北東			

潮流

朔望時ニ於ケル干満潮ノ差ハ九乃至十呎ニシテ可ナリ大ナリ本灣ニ於ケル海水ノ流れハ大体此潮汐流ニテ支配サル、

モ六月ヨリ九月迄ハ外洋ニ暖流ノ勢旺盛ナルニツレ灣口ニヨリ來ル流勢ニ支配セラル、モノアリ其ノ流勢ハ常ニ東岸ナル肝屬郡沿岸ニ沿フテ神ノ川沖ニ至リ餘勢ハ垂水沖ニ及ヒ之ト反對ニ極寒季二三月ノ候ハ北灣ヨリ來ル水ハ海峽ヲ通過シ西岸ナル揖宿郡側ヲ沿フテ南下シ喜入沖ニ及ヘリ此兩季ノ流ハ比較的流速早ク其ノ方向モ定リ其他ノ場合ハ大体ニ南北ノ潮汐流ヲ見ルナリ潮流ニ由ル海水ノ移動ハ淺所ニ於テハ其全部ノ水ニ及フモ深所ニ到ルニ從ヒ移動少ク南北灣共海峽ト灣口部ノ淺所ニ由リ水ノ

流動ヲ遮斷セラレ恰モ樽ノ嘴口以下ノ水カ自然ニ流出スルコト能ハサル如ク周年異動ヲ見ルコト少ク其水量ハ北灣ハ二分ノ一南灣ハ五分ノ二ナリ

水 温 本灣カ南北ニ延長シ南ニ開口セルタメ常ニ南北ニ於テ溫度ヲ異ニシ其差ハ最大四度ニシテ夏季灣外ヨリ高温水流入盛

ナルキハ全灣殆ント同温トナリ南北灣ノ差ハ一度位ニシテ之ト反對ニ冬季灣周ノ高嶺ヨリ吹來ル風アルキハ同一ノ現象ヲ呈ス一ケ年中水温ノ最高ハ七八月ノ二十九度ニシテ最低ハ二三月ノ十五度ナリ水温ノ急ニ上昇スルハ五六月ノ間急ニ下降スルハ八一、二月ノ間ナリ同時ニ於テ高温ヲ見ルハ北灣ニテハ福山沖南灣ニテハ中央部ニテ周圍ヨリ約一度高ク其位置ハ恰モ深海部ノ上層ニシテ周圍ノ影響遲緩ナルニ外ナラス

本灣ノ水温ハ周圍ノ陸地ヨリ來ル氣温ト灣外ヨリ來ル高温水ノ影響ニ支配セラル、モ南北灣ノ下層ニハ殆ント流動ヲ見ザル海水アルタメ之ハ單ニ表層水温ノ影響ヲ受クルニ止マリ而カモ其水量多キタメ底部ニ於テハ十一二度ノ低温アリ周年殆ント同温ニテ死水ノ状態ニアルヲ見ル

比 重 南灣ト北灣トノ海水比重ノ差ハ〇、〇〇一ニシテ北灣ニ於テ低キハ比較的河川ノ注入多キト雨水ノ停滯ニヨルモノ

ニシテ灣口部ニテハ〇、〇〇二ノ高キヲ見ルコトアリテ灣外海水ノ影響ヲ受ク全灣ニ於ケル最高比重ハ二六ニシテ最低二三ナリ一ケ年ノ消長ハ一月ヨリ三月ハ高ク(二六)五月ヨリ八月ハ低ク(六月最低二三)十月ヨリ十二月ハ稍ヤ高シ

海水透明度 南北灣ノ透明度ノ差ハ五六尋ニシテ常ニ北灣ヨリ灣口ニ進ムニ從ヒ海水清澄セリ透明度ハ八尋乃至十三尋ニ

シテ特ニ降雨出水后ハ猶低下スルコトアリ一ケ年中ニテ海水ノ清澄スルハ冬季ニシテ夏季ハ透明度小ナリ恰モ冬季高比重ニシテ夏季低比重ナル事實ト一致セリ

浮游微生物 浮ノ量ハ冬季ニ多ク夏季少シ種類ハ夏ヲ除ク外殆ント植物性ニシテ動物性ノ多キハ夏季高水温時ナリトス全

灣ノ分布ヲ見ルトキハ南灣ノ西岸ヨリ北灣ニ至ル間ハ植物性大部分ヲ占メ南灣ノ東岸及灣口部ハ動物性ヲ混スル場合多シ

漁業 本灣ハ他ノ内灣ト同シク波浪靜穩ナルタメ魚兒ノ生育ニ適シ小形魚類ニ富ミ百尋以上ノ深海部アルタメ魚類ニ必要

ノ深淺移轉ニ能ク灣内ノミニテ爲シ得ルカ故周年本灣ニ於テ同一魚族ヲ見ルモノ多ク淺キ地方ノ他ノ内灣ト趣キノ異ルモノアリ大形魚類ハ灣口部附近ニ多ク漸次北灣ニ進ムニ從ヒ減セリ灣外ヨリ入込ム魚トシテ知ラレタルハ旗魚鱈鯉鮪鯛ノ類又秋冬ノ候群集スル潤目鯉大羽鯉モ灣外ヨリ來ルモノ多シ

本灣ニ行ハル、漁業ハ次ノ如ク

鮪大敷網	鮪飼付	鮪刺網	秋太郎流網	スボタ廻網	ムロ敷網
島鱈廻網	鮪敷網	鮪刺網	鯉八田網	鯉揚線網	鯉地曳網
大羽鯉刺網	目近廻網	目近流網	鯉刺網	イサキ寄網	磯魚撈狩網
鯛地曳網	鯛底曳網	鯉底曳網	チヌ地曳網	雜魚引倒網	鯉卷網
手繰網	烏賊巢曳網	水イカ羅網	蝦漕網	蝦徒曳網	建干網
干潮建網	鱈刺網	壺網	蝦漕網	蝦徒曳網	建干網
鯛延繩	チタイ延繩	小鯛延繩	イノコ延繩	秋太郎延繩	唄繩
築瀬蛸壺	イカ釣	エソ釣	タチ釣	イサキ釣	ス、キ釣
ホゴ釣	タコ釣	メシカ釣	潮吹貝	蛤	
板屋貝	白貝	赤貝	潮吹貝	蛤	
鳥貝	モチ貝	鮑	トコブシ	月日貝	海栗
海蘿	ヒシキ	岩海苔	アオサ	天草	モツク

以上各種ノ漁業ハ灣内所在ニ行ハレ同一魚種モ漁場ノ地勢異ルニ從ヒ其方法ヲ異ニセリ試ミニ主ナルモノニ付其關係ヲ列舉ス

鰯漁業 鰯ハ本灣ニ最モ多ク周年其跡ヲ絶タス灣内到处ニ漁業スルモ海岸ニ近ク集マルハ稚鰯(多クハ眞鰯ノ子)ト脊

黒鯧ニシテ南灣ニテハ垂水大根占間北灣ハ東國分福山間重富海岸ニテ地曳網ニテ漁獲セラレ其他山川揖宿間小根占伊座敷間櫻島周邊ニモ海岸ノ傾斜地曳網ノ使用ニ適スルモ潮勢急ナルタメ魚ノ滯游ニ適セス鹿兒島揖宿間南灣ノ西岸一帶ハ餘リニ遠淺ニシテ海峽部ヨリ來ル潮流ノ洗フトコロナル故同様滯游スルコト稀ナリ

今一段沖合ニ行ハル漁業ハ八田網ニシテ集魚燈ニヨリ夜間使用シ漁船ヲ旋繫シ網ヲ展開スルタメ六七十尋ノ水深迄ヲ主トス此網ニ得ラル、モノハ眞鯧脊黒鯧潤目鯧ノ三種ニシテ脊黒鯧ハ北灣ヲ主トシ南灣ハ三月ヨリ五六月頃迄出現シ其後ハ眞鯧トナリ秋ニ入ルニ從ヒ潤目鯧トナリ翌春ニ及フ之ト同シク北灣ニテモ漸漁季ニ應シ之等魚種ヲ増加スルコトナリ其邊遷ハ海水溫度ノ消長ニ準セリ脊黒鯧ノ北灣ニ多キハ低比重水ノ停滯スルニ由ル八田網ノ漁場トシテ知ラレルハ山川知林島間大根占附近東櫻島垂水間及北灣ニテ新島濱ノ市見通シ以東ノ海ニシテ之ヲ海水ノ模様ヨリ見ルトキハ山川知林島大根占附近ハ南灣ノ水ト灣口ヨリ來ル海水ノ接觸ヲ生シ易キトコロ垂水附近及北灣奥ハ其處ニ壓迫セラレル海水ヲ生スル區域ニシテ自ラ魚ノ集團ヲ生シ易キニ因ル如ク又時季ニヨリ網ヲ沈下スル深サノ異ルハ海水溫度ノ關係ニテ其最下位ハ水溫躍層ト略ホ一致セリ大羽鯧ノ刺網ハ冬春ノ候盛ンニ行ハル恰モ産卵季ニシテ之カ爲灣外ヨリ入込ムモノニテ漁場ハ灣口部ヨリ南灣ヲ主トシ水溫殊ニ低下スルトキハ海峽部ヲ越ヘ北灣ニ及フ浮刺網ナルタメ水深ニ關係スルトコロナキモ常ニ急潮ノトコロニ漁獲多ク灣口及海峽部ニ近キトコロニ盛ンナリ大羽鯧ノ灣内ニ深ク入込ムヤ否ハ全ク當時ノ海水溫度ニ支配セラレ著シク低下セルトキハ深ク入込ムモノナリ

鱈漁業 鯧ト共ニ灣内各地ニ行ハレ釣漁ノ外沿岸ニ來ルモノハ底曳網ニテ漁獲シ其適所ハ海底ノ傾斜ト潮流ノ關係ニヨルタメ鯧地曳網ト同様ノ分布發達ヲ爲セリ

鮪漁業 大敷網ハ灣口伊座敷沿岸ニ行ハレ大形魚ノ漁獲ヲ見ルハ外海ニ接スルタメナリ嘗テハ北灣敷根福山沿岸ニ行ハレタル今ハ衰ヘタリ櫻島爆發ニヨリ大隅半島ニ接續シ海峽閉塞ノタメニシテ夏季高温水ノ流入アルトキハ今モ垂水牛根沿岸地曳網ニ漁獲サル、ナリ

鰯飼付漁業 灣口部ノミニ行ハル、ハ恰モ内外海ノ咽喉ニ當リ潮勢群集ニ適スルモノニシテ灣内ニ入りテハ多少群集スル底礁アルモ潮勢緩ニシテ其群濃密ナルニ至ラサルタメ發達ノ見込少シ

網漁業 之亦灣内ニ汎ク行ハル、漁業ニシテ釣延繩ハ七八十尋線迄ハ行ハレ網漁ハ地曳網底曳網ニテ山川知林島間高須新城間谷山新島邊ニ行ハル、ハ夫等ノ海底ハ深海部ヨリ魚ノ泳上ル衝路ニ當リ又ハ底質砂ニシテ餌料タル介虫類ノ栖息多キトコロニ當レリ

磯魚漁業 本灣中磯礁多キハ櫻島周圍及灣口部ニシテ磯魚棒狩網罟寄網イサキ寄網其他磯魚漁ハ殆ント同方面ニノミ行ハル、ナリ

鱸漁業 全灣到ルトコロニ回游ヲ見圍刺網鉾突ニ由リ漁業スルモ大形ノモノハ南灣ニ多ク北灣ハ稍ヤ小形ナルモ海水ノ透明度少キタメ魚ノ運動鈍ク漁業上有利ナル如シ

旗魚流網 灣口部ノ東岸ヨリ南灣東岸ノ大部分ニ行ハル、ハ恰モ同季灣外ヨリ來ル高溫水ノ勢力範圍ト一致セルヲ見ル

築瀬 松枝ヲ四五尋深迄ノ海底ニ沈メ魚ノ群集ヲ圖リ釣漁ヲ爲スハ灣内各所ニ行ハル、モ南岸一帶ニ盛ンニシテ同方面ノ潮流迅キコト、矛盾セル如キモ深海底ナルタメ其勢モ衰ヘ移動少キニ由ル其東岸ニ盛ンナラサルハ適當深ノ區域狹隘ナルニ由ル如シ

立干網 谷山鹿兒島間加治木西國分間ニ行ハル地勢干瀉多ク底質泥土ヲ含ムコト多キニ由ル

貝類 板屋貝ハ近年蕃殖ヲ見サルモ南灣ヲ主產地トシ白貝ハ南灣ノ西岸一帶及北灣中加治木以西ニ限ラル、ハ底質ト潮流ノ差ニシテ鮑トコフシノ灣口ノ東岸小根占以南ニノミ見ルハ同海岸ニ至リ漸ク外海性ヲ帶フルニヨルナリ

海藻 石花菜ハ灣口小根占以南海蘿ハ水ヨリ灣口ニ至ル間ニ産シ比較的水温高ク且波浪アルトコロニテ北灣磯礁ニ産セサルハ潮流緩ニシテ波浪少キニヨルナリ

尚本灣ノ漁業中沿岸水檢ノ漁業ニ付漁業組合地先別ニ見タルモノ次表ノ如ク灣ノ南北又ハ東西ニヨリ多少ノ差異アル外隣接地ト雖モ地勢ノ差ニヨリ支配セラル、モノアルヲ見ルナリ

以上ノ如ク灣内ニ行ハル、各種漁業ニ就キ現在漁業スル場所ノ磯礁底質等海底ノ狀況及海水ノ變化等ヲ考ヘ合ハスルトキハ現ヲ發達セシ埋由ヲ明ニシ更ニ全灣ノ夫等狀況ヲ考ウルトキハ具漁業ノ將來ニ付略ホ推定ヲ下ヌヲ得ヘシ

要スルニ本灣ハ他ノ海灣ト同シク波浪靜穩ニシテ微生物ニ富ムユヘ稚魚ノ成育ニ適シ小形魚類ニ富ム灣モ可ナリ大キク深海部アルユヘ他ノ灣ニ比シテハ大形魚モ多キ方ナルカ季ニ應シ灣外ヨリ入込ムモノ大部分ヲ占メ南北灣ハ中間海峽部ノ淺灘アルタメ其割合ハ北灣ニ少シ夫等魚類ノ特ニ群集スルハ灣外ヨリ高溫水ノ入込マントスルトキ及ヒ其勢力ノ衰ヘントスルトキナルモ種類ニ依リテハ最も低温水ノ勢力強キトキナルモノアリテ本灣海水温度ノ消長ハ漁業上最も注意ヲ要スルモノト認ラル假リニ表面水温二十度以上ニシテ下層ヨリモ表面カ著シク高温ナルトキヲ夏ノ海トシ表面水温十五度乃至二十度ニシテ下層二十五尋

位迄カ殆ント同温ナルトキハ春秋ノ海トシ表面水温十五度下ニシテ下層五十尋位迄カ殆ント同温ナルトキヲ冬ノ海トシ考ラレ
 ハ六月ヨリ十月迄ノ五ヶ月ハ夏海三月下旬ヨリ五月十一二月ノ四ヶ月余ハ春秋ノ海一二三月ノ三ヶ月ハ冬海ノ状態トナリ割合
 ニ夏海ノ長キヲ見ルモノニシテ全灣ガ夏海ノ状態ナルトキハ高温ヲ好ム魚種冬海ナルトキハ低温ヲ好ム魚種ノ増加ヲ見春秋海
 ノ状態ナルトキハ高温ヲ好ム魚種ハ灣口ニ近キ方面ニ低温ヲ好ム魚種ハ北灣ニ其影ヲ止メ其他東灣ニ常栖スル魚族ノ漁業處ト
 ナルナリ

鹿兒島灣各漁業組合専用漁業種類

— 免許ヲ得タルモノ
 ; 免許ヲキモ漁業セルモノ

漁業種類	鹿兒島灣北部										鹿兒島灣南部									
	西	東	新	重	帖	加	西	東	敷	福	西	東	新	高	大	大	小	伊		
鯛底曳網																				
イカ巢曳																				
鰻魚刺																				
磯魚刺																				
磯地刺																				
磯地曳																				
磯底千																				
磯刺																				
蝦徒曳																				
ナメ地曳																				

鹿兒島灣 海底調査圖

凡例

同深線
数字ハ深(尋)ヲ示ス

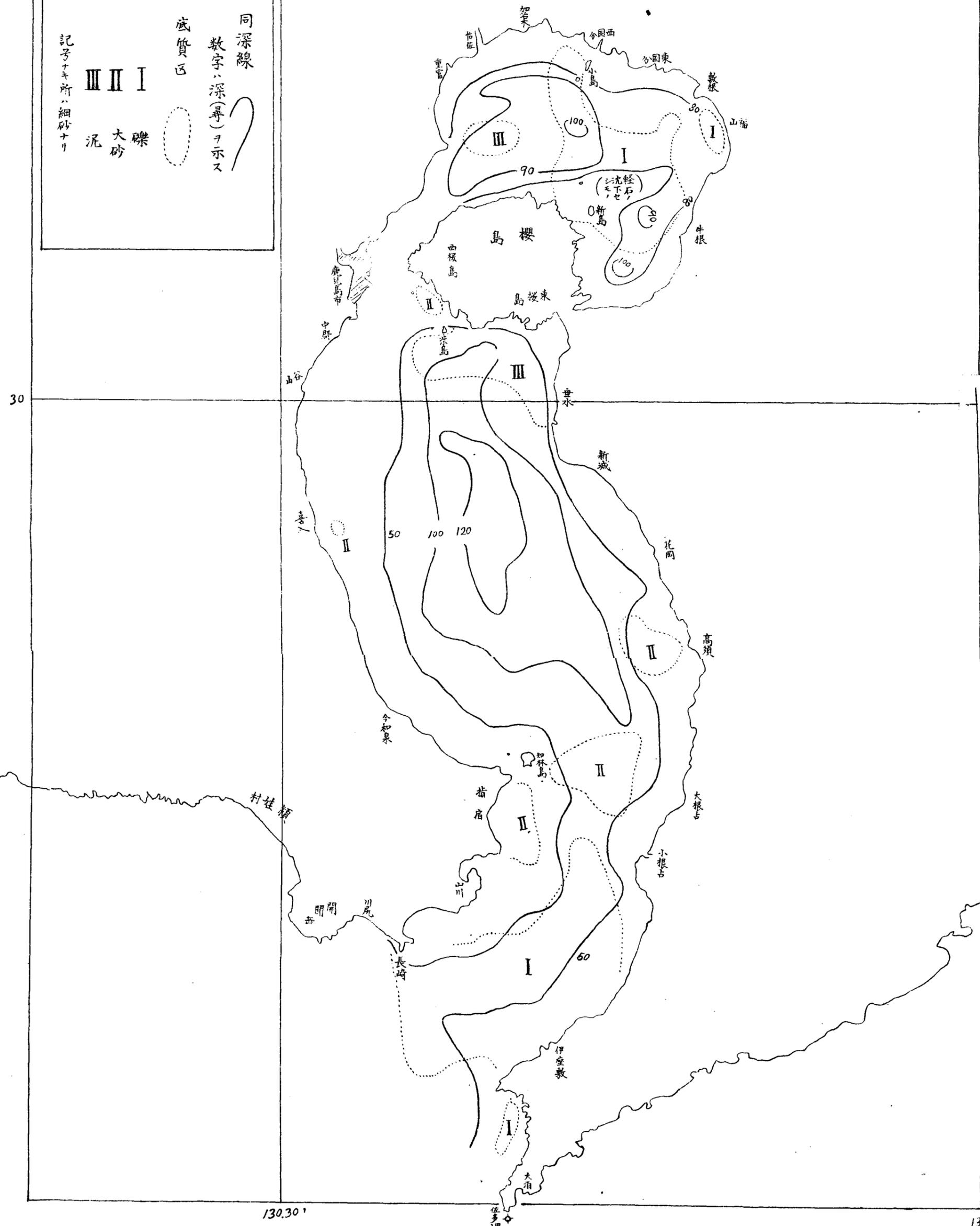
底質区

III II I
泥 大砂 礫

記号ナキ所ハ細砂ナリ

30

30



130.30'

八代海ノ漁礁

名稱	最近地名	位 置	漁 礁 及 周 縁 ノ 状 態	栖息魚種期節	使用漁具
1 せの曾根	桂島	桂島(大)ヨリ NW/W 1/2 W1,75	長一二〇尋礁上水深一〇—一五尋荒キ曾根ナリ	いさき、小だい	一延 本釣繩
2 てら	同	七尾島ヨリ E/NE 1/2	東西一四〇南北二〇〇尋礁上水深二—一八尋荒キ曾根ナリ	いとより	一本釣
3 大	同	桂島ヨリ N/E	長一二〇〇尋岩礁ニテカセ類叢生シ礁上一九—二二尋	小だい、鱧	一延 本釣繩
4 五びの	同	桂島ヨリ ENE	長九〇〇尋岩礁カセ叢生スルモ處ニヨリ泥ヨリ礁上一四—一七尋	同	同
5 ぐす	鹽迫小島	鹽進小島ヨリ E 1/2	長一五〇尋處荒キ岩アリ礁上一〇—二五尋	いさき、たひ	同

潮 流

均潮差ハ他ノ海區ト大差ナク二・三内外デア

漁 業

内海ニテハ他ノ海區ニ見ル如キ大型洄游魚ヲ見サルモ小形底栖魚類ハ極メテ多ク行ハレル漁業モコレヲ主目的トナシテ居ル打瀬網手繰網鯛地曳網鰻地曳網いか曳網かます刺網等ガ主タル漁具デア

鰻 漁 業

真鰻、潤目鰻ヲ主トシ獅子島、長島、米ノ津沿岸ナドノ各所デ地曳網ニテ漁獲サレ漁期ハ六七月十一月頃ヲ主トス

鯛 漁 業

一本釣、延繩、刺網、地曳網等ニヨル地曳網ハ鯛ノ盛漁期ナル四五月頃ニ行ハレ他ノ時期ニハ釣ヤ刺網ニテ小鯛漁ヲ目的トス

雑 漁 業

車蝦、くま蝦、いか、はも、えそ、いとより、いさき等は、打瀬網、手繰網ニヨリいかなごハ房丈網ニヨリ多少漁獲ヲ見分布ノ南極ヲナシテ居ル

海代八 圖查調底海

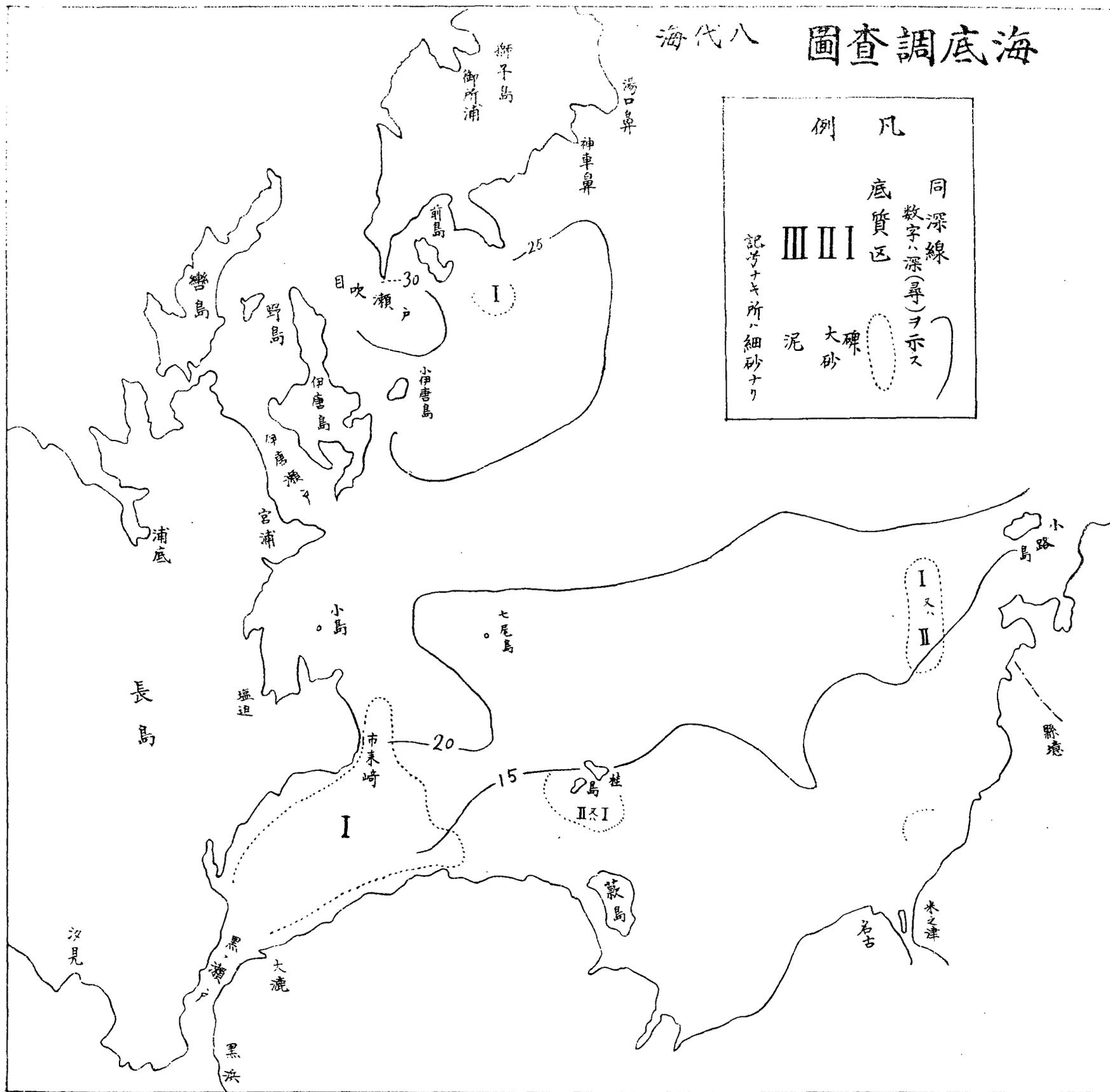
例 凡

同深線
数字、深(尋)ヲ示ス

底質区
III II I

泥 大礫 大砂

記号ナキ所ハ細砂ナリ



西薩海北部

薩摩ノ西岸中川内川口ヨリ甌島見通線以北黒瀬戸ヨリ東長島ヲ經天草下島ニ至ル線ニテ包擁セラル、海區ニシテ西沖ハ甌島繩瀬岬ヨリ正北見通線迄ニ止メタリ此総面積二百三十平方海里ニシテ南ハ甌島海峡ニヨリ西薩南部海ニ通シ北ハ黒瀬戸牛深海峡ニヨリ八代海ニ通シ西ハ外洋トナレリ

水深 天草下島及甌島北方ハ急傾斜ヲナセドモ他ノ部分ハ緩傾斜ニシテ四十尋乃至五十尋ノ深度ヲ有スル一大平坦部ハ甌島北方ヲ底トシ天草下島南方ヲ頂角トスル二等邊三角形ヲナシ其沖合ニハ殆ンド南北ニ通ズル六十尋線ガ接近シ東方ニハ四十尋ヨリ二十尋ニ至ル緩傾斜ガ接續シテ居ル

底質 北部牛深海峡ノ前面ニ廣キ大砂礫底アリ阿久根佐瀉崎沖ニ南北ニ亘ル同様ノ底質アリ又川内川口ヨリ甌島ニ至ル中間ニ大砂底アルモ其他ハ殆ント小砂ナリ甌島ニ近キ部分及阿久根佐瀉崎ヨリ黒瀬戸ニ至ル間岩礁散点シ且ツ主ナルモノ左ノ如シ

西薩海北部漁礁

漁礁名	最近地名	位置	漁礁及周縁ノ状態	栖息魚種期節	使用漁具
合會根	阿久根町	佐瀉崎西微南約四哩	水深三十尋		鯛付漁業
見付	同	佐瀉崎ノ西五哩合會根ノ北西二哩	東西千間南北二十間礁上四十五尋貝殻砂泥ニテ点々隆起シ沖側ハ岩ヲナス	鯛四―六月十一月―三月 鱧九―十一月	延田網
三百	同	佐瀉崎ノ南西七哩	東西五百五十間南北三百五十間礁上十八尋東西ノ瀨落三十二尋荒岩ナリ	鯛羽鱧スポタ	一本釣
寅(ハチカソネ)湖	同	佐瀉崎ノ南西六哩三百會根ノ東ニ續ク	荒岩ナリ		
鎌ザコ會根	同	三百會根ノ西二哩			

北ノノ	津	川内川口西側北二湊	備上十八尋側部三十九尋海藻ナシ	備瀬魚	備四隻張網 捧受網
里	村	里村ノ北西約五湊			備飼付漁業 免許區域

潮流 潮流ハ主トシテ潮汐ニ因リ平均高低潮差二米内外ヲ示シ阿久根川内間ノ潮流ハ漲潮ニハ北上落潮ニハ西北ニ流ス

黒瀬戸、長島海峽ニアリテハ漲落潮ニハ潮速五、六湊ヲ算シ交通ノ障害トナル事ガ多イ

漁業 此ノ海區ハ直接外海ニ接シテ居ルノデ鮪、鯷、はがつお、鯛ナドノ洞游魚ノ來游アリ又他方沿岸定着性小漁類モ

多ク鮪大敷網備飼付建干網鱸地曳網鯛地漕網四張網八田網龍蝦刺網鰻敷網其他各種ノ漁業カ行ハル

鮪漁業 外海ニ接シ百尋線ノ沿岸ニ接近セル上甌島北部ニ行ハレ漁法ハ大敷網ニヨリ漁期ハ五月ヨリ九月ニ及ブノガ普通デア

備飼付漁業 西方沿岸ヨリ五湊沖合ナル合ノ會根ニテ行ハレ漁期ハ十月上旬ニ初マリ十二月下旬ニ終了スル

建干網漁業 川内川口附近ニ行ハル、モノデ漲潮時ニ來游シタ魚類ガ落潮ト共ニ沖合ニ出ズルヲ豫メ定置シタ圍網ノ中ニ陥入セシメテ捕獲スル漁業デ魚ノ大小ヲ問ハズ漁獲スル爲繁殖保護上有害ナル場合多ク事情ノ許ス限リ禁止スベキ性質ノモノデア

鱸漁業 底質潮流等適當ナル故沿岸各所ニ鱸地曳網ガ使用サレ云々等深線附近ニハ八田網ニヨリ潤目鱸真鱸等ガ漁獲サレ刺網ニヨル大羽鱸漁ハ十二月下旬ヨリ二月中旬ニ及ンデ沿岸各地デ行ハレル鱸漁業ハ實ニ本海區漁業中ノ大宗タルノ地位ニアリ

鯛漁業 外海ヨリ産卵ノ爲來游スルモノハ甌島ノ東部ヨリ北上スルヲ以テ甌島ニ次デ漁期ニ入ルヲ普通トシ一般ニ鯛地漕網

葛網、一本釣、刺網等ニテ漁獲サレ小鯛ハ殆ンド周年刺網ニテ漁獲サレテ居ルガ其量ハ多クナイ

龍蝦漁業 底質ハ岩礁礫等ニシテ多少外海ノ影響ヲ享クル阿久根沿岸及長島南岸ハ龍蝦ヲ産スルモ川内川附近ニ産セザルハ淡水ノ影響ノ爲ナリ産額四五千貫ニ及ビ水産物中相當重要ノ地位ヲ占ムルモノナリ

海藻 岩礁ヨリナル沿岸ハ相當多イノデ天草、海蘿、ひじき、わかめ等ヲ産シわかめノ分布ハ西方附近ヲ以テ南部分布ノ極限ヲナシテ居ル

總收 地勢上洄游魚及定着性魚類割合多ケレドモ淺海砂質ニ棲息スル貝類ニ乏シイコレハ底質ノ適セザルト比重ノ高キニ失スル爲デアル海蘿、あわび、龍蝦ノ生育ニ適スル岩礁ハ相當多イノデ適當ナル増殖方法ニヨラバ見ルベキ効果アルハ言フマデモナイ

一月ヨリ四月頃迄ハ大羽鰻ノ漁アリ四五月迄ハ主トシテいか龍蝦及鯛漁期デアリ、五六七月ハ鰻漁業ニ終始シ八月ハ羽鰹鱈ノ一本釣行ハレ九十一月ニ及ンデハ八田網ニ依ル鰻漁ヲ主トシテ居ル十二月以降ハ沿岸ニ來游スル大羽鰻ヲ目的トシテ居ル

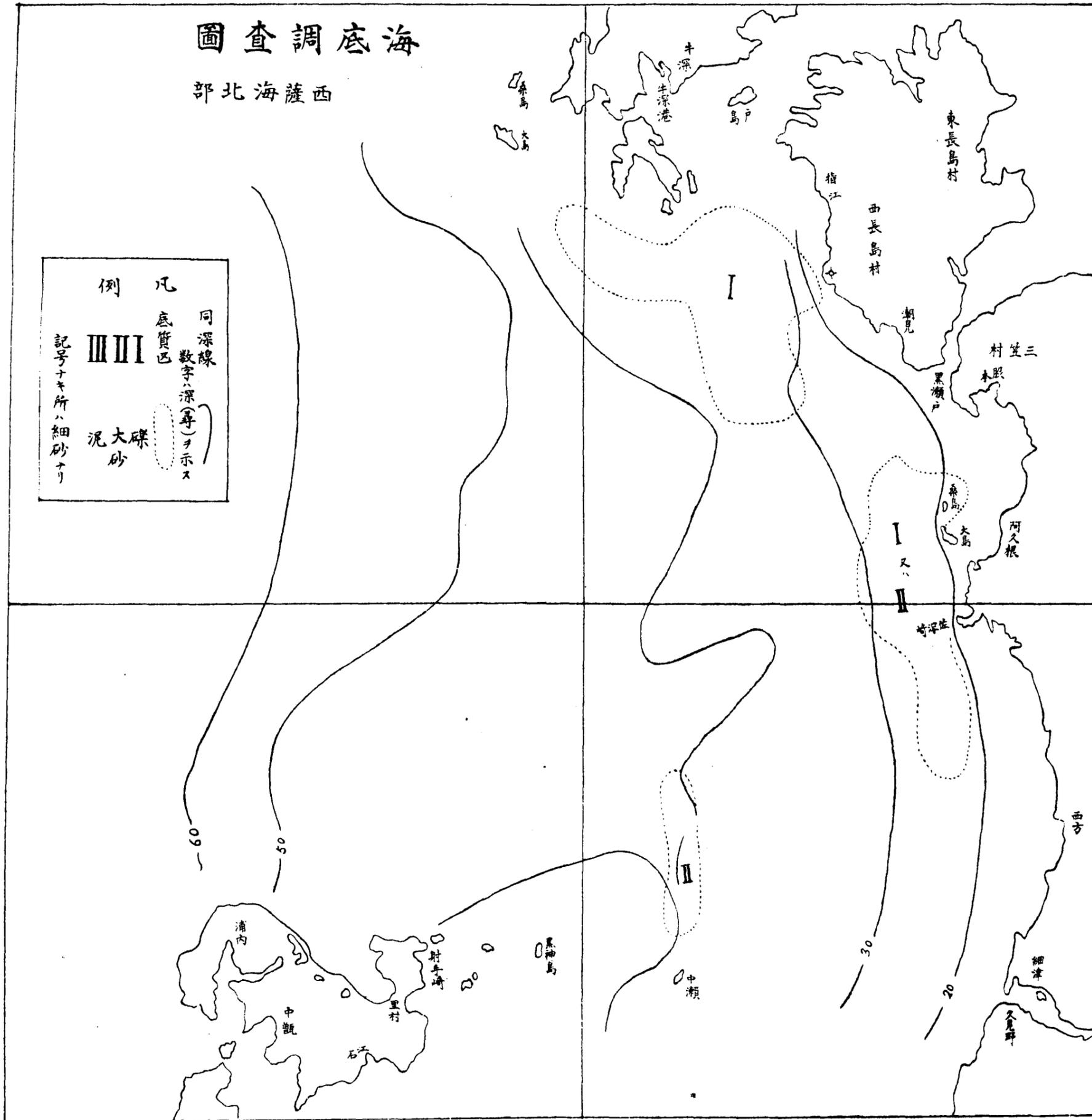
西薩海北部専用漁業種類表

種類	組合														
	西長島	三笠村	阿久根	西	方網	津	久美崎	寄	田	里	浦	内	蘭	平	田
銀刺網															
磯建															
鯛地曳															
棒受															
鱈繰															
鱈寄															
イサキ寄															
ムロ敷															
磯魚狩刺															
水イカ刺															
鱈追込															

海底調査圖

西薩海北部

例	凡
記号ナキ所ハ細砂ナリ	同深線 数字ハ深(尋)ヲ示ス
III III	底質区
泥 大砂	()



西薩海南部

薩摩ノ西岸中川内河口ヨリ甑島見通線以南野間岬ニ至リ甑島ノ東側ヲ沿ヒ手打岬ニ至リ同岬ヨリ野間岬見通線ニヨリ包圍セル海區ニシテ此總面積三百十二平方海里北ハ甑島海峽ニヨリ西薩北部海ト通シ西南ハ外洋トナレリ

水深 等深線ハ大体ニ於テ海岸線ニ平行シ沖合ヘハ極メテ緩カニ漸次深度ヲ増加シ羽島岬ヨリ上甑島ニ至ル海峽帯ハ五十尋以內ノ深度デ南下ト共ニ深度ヲ増シテ居ル甑列島東北部ニ於ケル傾斜ハ上甑島ニアリテハ南部ニ急東部ニ緩下甑島デハ東部及ビ南部ニ向ツテハ急傾斜ヲナシテ居ルカルカ故ニ甑列島日置川邊沿岸ヨリノ斜面ノ合流点ハ下甑島ノ東南八湊ノ地点ニ横ハリ峻谷ヲナシテ西南部ヘト下甑島ノ南方凡ソ九湊ノ邊ヲ通過シテ居ルコノ海區ヲ深度ヨリ還元シテ見レバ野間岬ト下甑島南部ヲ門口トスル一ノ海灣ヲ想定スル事ガ出來ヨウ御嶽ノ緩傾斜ハ管テハ上甑島ノ東北部ニ連接シテ居タ日ノアツタ事ガ思ハレル

底質 上甑島ト羽島岬トノ間ヲ通ズル潮ハ割合急ナル爲大砂礫ヲ主トシ野間岬北部及東北部ハ小砂泥土デ甑島沿岸ハ少砂大砂礫岩礫等ニシテ他ノ大部分ハ少砂ニ覆ハレテ居ル此海區ニ於ケル底礫ノ主ナルモノ左ノ如シ

西薩海南部漁礁

漁礁名	最近地名	位	置	漁礁及周縁狀	魚族及期節	使用漁具
はたもん曾根	野間池	岬南西微西四分ノ三西 米島西二分ノ一南	南北四十二間東西二十五間周圍八十間ニシテ水深三十 四尋ナリ礁ハ南北兩端隆起シ中央部稍低シ	いわし	八田網	
はいかけク	同	米島南西微西四分ノ一南高崎東 四分ノ一北	東西ニ長キ楕圓形ヲナス砂泥質ノ隆起ニシテ礁上九尋 アリ	いわし	同	
かてク	同	米島東微北四分ノ三北鹿瀬南東 二分ノ一東	南北ニ長ク六百間余東西二百五十間ニシテ北方高ク南 方ハ低シ水深四十六尋ナリ礁ハ凹凸多ク礫アリ	より二一八月 たい十一四月	延繩	
北ク	同	岬南微西四分ノ三西高崎東四分 ノ三南	稍ヤ圓形ニシテ周圍千間余アリ低礁ニシテ三十二尋ア リ	あら、あかばら、ぶ り、たい	同	

地名	種別	位置	地形	水深	底質	調査時期	調査方法
岬	ク	同	同	同	同	同	同
鹿瀬東	ク	鹿瀬北微西四分ノ三西野月岳頂上東二分ノ一北	東西百間南北二百間アリ北方ニ高ク南方ニ低シ五十八尋ナリ	徳上四十八尋アリ	たい、あかばらたいめ、あら	同	同
米島東北東	ク	同	同	同	同	同	同
廣	ク	片浦	東西二百五十間南北百六十間西北中央南東部ノ三ヶ所ニ高ク水深十八乃至二十尋底質岩ナリ	西南部ヨリ北東部ニ長ク百六十間巾四十間余東北端最モ隆起シ水深三尋半ナリ底質岩ナリ	ぶり、たい、ひらす、ふか、あら十一四月	同	同
大	ク	同	同	同	同	同	同
今	ク	小湊	小サキ自然ノ瀬ナリ水深十四尋乃至十四尋半ナリ	全右水深十三尋半乃至十四尋ナリ	い、わし、さば	同	同
立	ク	同	同	同	同	同	同
だ	ク	同	同	同	同	同	同
金	ク	同	同	同	同	同	同
門	ク	同	同	同	同	同	同
三	ク	同	同	同	同	同	同
新	ク	同	同	同	同	同	同
下	ク	申木野	陸地ヨリ沖合ニ連突セル岩ヨリ成リ長方形ヲナシ十三尋アリ沖合ノ部ニ於テ最モ高シ	水深十一尋自然ノ瀬ナリ	いせえび、あち	同	同
大	ク	同	同	同	同	同	同
な	ク	同	同	同	同	同	同
高	ク	同	同	同	同	同	同
沖	ク	同	同	同	同	同	同
そ	ク	同	同	同	同	同	同

みなとク	同	久多島南緯西二分ノ一西 沖羽島北西二分ノ一北	圓形ニシテ周圍四百十間余十六尋ニシテ低礁底質ハ砂利トス	あぢ、さば、ちだい	持網
きちぞうク	同	同南緯西二分ノ一西沖羽島西緯北四分ノ一北	隨圓形ニシテ低礁砂利トス水深十八尋アリ	同	同
おなベク	同	同南緯西二分ノ一西	長方形ニシテ砂利十八尋ノ低礁ナリ三尺余	同	同
喜平ク	同	同南緯西四分ノ三西沖羽島北西緯北二分ノ一北	南北六十間東西四十間以上ノ低礁底質ニシテ水深十七尋ナリ	ちだい、さば、いさき 周年	延縄釣漁業
がいク	同	同島南緯西沖羽島北西緯北四分ノ三西	南北六百六十余間東西百十餘間アリ低礁十九尋礫ナリ、沿岸ヨリ沖合ニ突出セル長方形ノ岩ニシテ長サ五百間巾四十間余ナリ水深八十尋ナリ	ちだい、さば周年	同
がべんと會根	同	沖羽島北西緯西二分ノ一西羽島輪北西二分ノ一西	長崎島ノ延長ト見ルベキモノニシテ周圍千間余ノ四角形ノ岩ナリ水深十一尋アリ	同	同
小ク	同	長崎東緯南四分ノ三南		同	同

潮流 潮差凡ソ二、五米内外デ潮流ハ主トシテ潮汐ニ依リ甌島東岸ハ沿岸ニ直角ニ流動シ薩摩半島ノ大辻鼻沿岸ヨリ甌島

ニ至ル間ハ漲潮ニハ北ニ落潮ニハ南ニ流動シ串木野沖合ニ於テハ潮流極メテ複雑ヲ呈シ漁業ニ影響スル事多ク野間御沖合ニアツテハ沿岸ニ殆ンド平行シテ流動スルノガ認めラル

水溫及比重 本海區ノ一部ハ外洋ニ接シ多少暖流ノ影響ヲ享ケテ居ルノデ暖流ヲ除外シテ水溫ヤ比重ヲ考ヘル事ハ出來ナ

イ冬期春期ニ暖流ノ北上力ヲ減退セシムルモノハ季節風デアアルノデコレノ卓越ハ水溫ヲ低下セシメ反對ニ衰退セシムル様ナ現象ヲ見タル場合ニハ水溫ヤ比重ノ上昇ヲ來ス事ガアル夏期ノ水溫ハ沿岸ニ高ク沖合ヤ甌島東部ニ於テ稍々低ク九月中旬ニ至リ

テハ沖合及甌島東部ニ高ク沿岸ニ稍低キ傾向ガ見ラレル比重ハ甌島沿岸ニ高ク沿岸帯ニ於テハ多少低イノガ普通デアアル

漁業 海區ノ三分ノ一ハ大陸傾斜三分ノ二ハ大陸棚デアツテ海底ノ起伏底質ノ様式等當ヲ得テ居ルノデ底着魚洄游魚多種多樣ニ及ビ行ハレル漁業モ廣範圍ニ及ンデ居ル

今行ハレル漁業ノ主ナルモノハ鱒刺網鮪大敷網鱒大敷網目近額網鮪待網鰯敷網鯖小寡網鱒飼付鰓地曳網棒受網八田網鯛地曳網

水鳥賊曳網磯建網罾等デ大敷大謀飼付ノ類ハ甌島野間半島ナドノ大陸棚ノ短少ナル海ニ行ハレ他ノ漁業ハ沿岸各地ノ大陸棚上ヲ主要漁場トシテ居ル

鯽飼付漁業 十月下旬頃ヨリ適水温ヲ追フテ大陸棚上ニ索餌來游スル鯽ヲ目的トスル鯽飼付漁業ハ十二月下旬ニ大体終漁スルモノデ手打片浦野間池等ヲ漁場トシテ居ル

鯽大敷漁業 二月上旬ヨリ五月上旬ニ及ンデ沿岸近クニ群ヲナシテ索餌來游スル鯽ヲ目的トスル漁業デ極メテ消極的ナ漁法デアルダケニ漁場ノ撰定ニハ地理的條件ガ極メテ要視サレテ居ル水深カラ考ヘルト等深線ガ灣入シ再ビ突出シテ居ル頂点ニ網ヲ定置スルモノト灣入セル底部ニ網ヲ定置スルモノト二種ニ大別スル事ガ出來ル神奈川縣ノモノハ主トシテ前者ニ類シ鹿兒島縣ノモノハ後者ニ屬シテ居ルト思ハレル今兩者ノ得失ニ就イテ論斷シガタイガ前者ガ效果的デアル事ハ論ズルモノデモナイト思フコノ外潮流ナドモ必要條件ノ大ナルモノデ各漁場一樣ニ論ジ難イ甌島ノ夜萩瀬尾吹切茅牟田野間半島ノ秋日赤ノ間等ハ皆大陸棚ノ短少ナ部分ニ存在シテ居テ此漁業ノ共通的特徴ヲ示シテ居ル

鯿漁業 主トシテ鯿餌料トナル垂口鯿ノ外真鯿潤目鯿等ガ漁獲サレ漁具ハ棒受網（註）曳網八田網鯿小台網等ヲ使用シテキル甌島沿岸ハ棒受網ニヨリ九月ヨリ二月迄ヲ漁期トシ川邊郡日置郡沿岸デハ棒受網ノ外ニ地勢平坦ナルニヨリ鯿曳網ガ使用サレル鯿小臺網ハ羽島崎附近ニ八田網ハ串木野沖合及ビ久多島沖合ノ五十尋ノ等深線附近ヲ主要漁場トナシテ居ル

鯛漁業 多少共周年行ハレテ居ルガ盛漁期ハ底水温ガ十六乃至十七度臺ニ上昇スル三月下旬ヨリ五月ニ及ブラ常態トスコノ時期ニ來游スル鯛ハ産卵ノタメ外海ヨリ甌島東南部ニ横ハル深谷部ニ沿フテ北上スル事ガ想像サレル主漁場ハ市來村沖合久多島沖合ノ三十尋内外ノ區域及ビ上甌島東方ノ沖合ヲ好漁場トシ主トシテ延繩ニヨリ底水温ガ十八度十九度トナル七月中旬ヲ終漁期トス

鮪大敷漁業 外洋ニ接シ百尋等深線ガ沿岸ニ接近セル場所ヲ漁場トシテ居ルノデ甌島東岸デハ蘭牟田夜萩青長濱瀬々浦片

野浦深浦吹切順口等ニシテ野間半島沿岸デハ市ノ助瀬松島七ツ瀬白河原白瀬秋目網代等漁場トス漁期ハ五月ヨリ十月ニ亘ルヲ普通トス

鳥賊漁業 スルメイカハ先ヅ三月上旬ニ下甌島蘭牟田沖合ノ三〇乃至五十尋ノ場所ヨリ初マリ漁場ハ漸次北部ニ移動シ五月

中旬ニハ阿久根近海ニ至ルヲ見ルコノ外東西市來、高城、串木野沖合ニカケテ甲鳥賊とんきいか等ノ春期漁獲サレルモノ相當アリ

築瀨漁業 二十五尋内外ノ處ヲ撰ビ鯨粕粘十松葉ヲ古舟ニ詰メ之ヲ沈下シテ魚類ノ滯游ヲ圖ルモノニシテ東市來沿岸ノ神之

川會根新會根今會根三立會根等ニ設置サレ鯨アジ鯛等ノ滯游スルモノ多ク良好ナル結果ヲ示シツ、アリ

龍蝦漁業 甌島沿岸及ビ野間半島沿岸ハ概シテ急峻ニシテ岩礁ニ富ミ且ツ日本暖流ノ影響アルヲ以テ龍蝦ノ生育ニ適スルモ

其産額大ナラズ甌島ハ潜水ニ依ル漁獲ノタメ漁場荒廢セリ

鱒漁業 鰯ト共ニ各地ニ行ハル、漁業ニシテ漁法ハ一本釣地曳網八田網底曳網ニヨル鱒底曳網ハ潮流底質ノ關係ニ依リ鰯地

曳網ト同様ノ分布状態ヲナシテ居ル

貝類 蛤ハ淺海砂質ニシテ淡水ノ影響アル川口附近ヲ棲息好適地トナスヲ以テ西方加世田沿岸等ニ多少産ス岩礁ヨリナル

甌島秋目浦ニハ鮑ヲ産シ其ノ他萬世町沿岸ニ見ル馬珂貝竹蛭、島平浦ノ月日介等アレ共産額大ナラズ

海藻 海藻ハ岩礁ヨリナル沿岸ニ發生ヲ見大體石花菜ト同様ノ分布ヲ示シテ居ル甌島沿岸ハ眞海藻ヲ主トシ野間半島沿岸

ハンク口海藻多シ鹿尾菜ハ島平串木野長濱沿岸 産シ海人草ハ甌島東部ニ多少産ス

總收 本海區ハ百尋線内ノ面積ハ全面積ノ三分ノ二ヲ占ムルヲ以テ沿岸底着性魚類多ク又時期ニ依リテ外洋ヨリ洄游スル

大型魚ノ漁獲ハ外洋ニ接セル甌島野間半島沿岸ニテ行ハレ日置郡沿岸ヲ除ク區域ハ大方急峻ニシテ岩礁ノ点散セルモノ多ク隨ツテ海藻石花菜鮑龍蝦等ニ惠マレ日置郡沿岸ハ砂質ニシテ貝類ノ棲息アリ又底質ノ關係上本海區ノ地曳網漁業ハ主トシテ此ノ

沿岸ニ行ハレル

一月ヨリ五月頃マデハいか龍蝦鯛等ガ漁獲サレ晩春ヨリ初夏ニ及ンデハ鯉鱒小鯛等ヲ目的トシ八月ハ一般ニ閑漁期ニシテ羽鱈鯖鱈等ノ一本釣及鯉餌料トナル垂口鯉ガ八田網ニヨリテ少々漁獲サレルニ過ギナイ秋期カラ初冬ニカケテ八田網ニヨル鯉ヲ主目的トシテ居ル水溫比重ハ黒潮ニヨツテ多少左右サレル傾向ガ見ラレルコノ海區ニ入込ム鯛いか沿岸ニ接近スル大羽鯉等ハ水溫ニ多ク支配サレルノデ水溫年變化ノ状態カラ大体洄游時期ヲ推定スル事ガ出來ル有様デアアル

漁業種類	日 置 郡										川 邊 郡				靛 郡				島			
	浦本	來市西	來市東	平島	島羽	作伊	浦川新	砂笠	湊小	目秋	村甲	石江	靛中	内浦	田牟蘭	濱長	長平	瀨青	浦々瀨	浦野片	打手	
銀刺網																						
磯建																						
棒受																						
鱈繰																						
鱈敷																						
寄																						
水イカ曳																						
鯛敷																						
鯛地曳																						
鯉地																						
銀敷																						
鯖地曳																						
鯛地曳																						

海底調査

海底調查圖

西薩海南部

